

A large, expressive white brushstroke is painted across a solid gray background. The stroke begins in the upper left, curves upwards and to the right, then loops back down and to the left, crossing itself. It ends with a sharp, downward-pointing tail. The texture of the brush is visible, with varying line thickness and some dry-brush effects.

徳島県美術家協会

美術年報

2016

目 次

はじめに	徳島県美術家協会会長 河崎 良行	1
徳島県美術家協会規約		3
後援承認事務取扱規定		4
後援名義使用承認申請書様式		5
平成 26 年度事業報告		7
平成 27 年度役員名簿		10
平成 27 年度各部役員名簿		11
第 23 回放美展記録		16
第 23 回放美展出品・入選等状況		22
第 23 回放美展公募規定		23
第 70 回記念徳島県美術展記録		24
第 70 回記念徳島県美術展出品・入選等状況		32
第 70 回記念徳島県美術展公募規定		33
徳島県美術展審査員一覧		34
徳島県美術展開催運営要項		38
第 11 回徳島県こども美術展出品・入選等状況		42
平成 27 年各部記録		
・日本画部	部会長 岡 英彦	44
・洋画部	部会長 榊田 務	47
・写真部	部会長 上野 照文	54
・彫刻部	部会長 松永 勉	58
・美術工芸部	部会長 多智花佐代子	62
・書道部	部会長 荒井 彭仙	66
・デザイン部	部会長 田中 一郎	72
平成 27 年度会員名簿		
・日本画部	78	・美術工芸部 87
・洋画部	79	・書道部 88
・写真部	82	・デザイン部 98
・彫刻部	86	

あとがき

はじめに

徳島県美術家協会会長

河 崎 良 行

昨年は、戦後70年ということもあり、さまざまな分野において記念行事が行われたが、徳島県美術展も70回を迎えることになり、その歴史を振り返る大きな節目となった。

県展は、1946年11月に第1回展（徳島新聞社主催）が始まりであるといわれている。それは終戦二年目のことで、大空襲を受け焼野原となった徳島市内で立ち上げることができたというのは、相当強力なリーダーシップによるものと思われる。敗戦で希望を失った暗い時代に、県民を元気づける方策としては、画期的なことであった。その後、1948年に徳島県美術家協会が創立され、共催で現在に至っている。

そのおかげで、県内在住者の作品の発表の場と、美術作品鑑賞の機会が提供されることになり、徳島の美術文化活動の基盤となっている。

70回目となる記念すべき行事としては、徳島県出身で日本を代表するアーティストである吹田文明先生をお迎えして、県展会期中の10月17日に、あわぎんホールで特別記念講演会を開催した。テーマは「徳島からみる日本の美術界」で、多くの美術愛好家が集まり会場は超満員の盛会となった。

その後、県展関係の来賓を迎えて出品者懇親会を開催し、県展の変遷を振り返るよい機会ともなった。

審査員はこれまでと同じく、県外審査であり、中島千波氏（東京芸術大学名誉教授）をはじめ各部門を代表するベテラン作家に依頼し、おおむね好評を得た。今回に限ったことではないが、地域の特色を生かした秀作が多く見られ、審査員の視点にも地域性を意識した様子がうかがわれた。例えば、日本画の県美術家協会会長賞「鳴門」（反田卓）については、渦潮をモチーフにした作品に「徳島の土地柄をしっかりと表現している」との評があり、彫刻の県教育長賞「風をとらえて」（近藤美暁）は、地元で採取された朽ちかけた木と風の表現が評価された。洋画の70回記念賞の「イリュージョン踊り天国」（高木宏）については「独創的な試みで、阿波踊りの熱気が伝わってきた」とのコメントがあり、写真の70回記念賞「ざわめく夏」（野藤みきよ）も「阿波踊りをモチーフに徳島の人々の心の古里が表われている」との評であった。美術工芸に至っては、「地場産業」や「県民性」などを挙げて、徳島市長賞「陽想」（陶芸・田村栄一郎）及び70回記念賞「追憶」（染織・原田明實）など、大谷焼や藍染に関心を示し「全体的にレベルの高さを感じた」と評価された。

以上は一部の事例であるが、「創作における芸術性と地域性」の重視は、審査員の県展に向けたメッセージであると受け止めた。

70回展は、これまでの2期を3期に変更した。展示スペースに限りがあるので、その緩和策として、3期制を試みた。その結果展示作品を増やすことができ、ゆとりのある展示は県展の格調を高める雰囲気さえ感じられた。

23回放美展は、四国放送との共催で5月2日～5月6日まであわぎんホールで開催された。出品者は713人で1,043点の出品があった。人口減少の中でこれだけの出品者が健在であり、内容の充実からも放美展への意欲が保たれていることは、大きな成果といえるであろう。しかし、入場者数から察すると、高校生以下が極めて少なく、今後その対策が望まれる。放美展の趣旨として、新人の発掘に努め裾野を広げることが目標であり、特に高校生には何かと連繋を深め、アートに関心を持つ機会が作れないものか。未来を切り開く若手美術愛好者の育成は是非とも必要であろう。

徳島県こども美術展は、第11回を迎え、第17回県民文化祭分野別フェスティバルとして徳島新聞社と共催の形で、10月16日から20日まであわぎんホールで開催された。小中学生の絵画と書写の作品が展示され、多くの来場者があり盛況であった。

巡回展は、11月に阿南市（徳島新聞社カルチャーセンター阿南アピカ校）と美馬市（うだつアリーナほか）で開催され、準特選以上の全作品と地区の入選作品が展示された。

絵や書を幼少時から体験することは、だれもが秘めている創造力や表現性を引き出すいい機会となり、大人にとっても児童作品に触れる貴重な場となっている。

最後になりましたが、県民文化祭委員会の助成と共催の徳島新聞社、四国放送並びに美術家協会のメンバーに感謝の意を表します。

平成28年3月

徳島県美術家協会規約

昭和 23. 9. 12 規約制定	昭和 58. 6. 5 規約一部改正
32. 7. 14 新規約制定	61. 6. 21 "
33. 4. 29 規約一部改正	平成 4. 6. 27 "
42. 4. 23 "	6. 6. 25 "
46. 4. 29 "	10. 6. 27 "
47. 5. 29 "	24. 6. 9 "
49. 8. 22 "	25. 6. 1 "
52. 7. 23 "	26. 6. 1 "
56. 5. 5 "	

第1章 総 則

- 第1条 本会は徳島県美術家協会と称する。
- 第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。
- 第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。
①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン
- 第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。
(イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会
(ニ) 観光美術の振興 (ホ) その他必要な事業

第2章 役員および会員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会 長 副会長(2名) 事務局長
理 事(若干名) 監 事(2名)
会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員の任期は2年として留任をさまたげない。
会長・副会長の総会での選出方法は、各部で代議員の中から2名の選考委員を選び、予め候補を選考した後、総会で選出する。
- 第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。
- 第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。事務局長はこの会の事務業務を統括する。監事はこの会の経理を監査する。
- 第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員の選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。
総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、31名以上の部にあっては、さらに10名毎に1名選出できる。
- 第9条 理事会及び部会長会は必要に応じ会長が招集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。事務局長は必要に応じ事務局員を招集し、事務分担を行う。

第3章 部 会

- 第10条 各部に次の役員をおく。
部会長・委員(部会員数の3割以内とするが、部の事情によってはこの限りではない)
部監事(2名)
事務局員(2名)
役員は部総会で選出する。役員の任期は2年とし留任をさまたげない。
- 第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員の選出その他重要事項の審議を行う。
ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。
- 第12条 委員会は必要に応じ部会長が招集し部会務を執行する。
- 第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。
- 第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

- 第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。
- 第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。
- 第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

内 規

- 1 (監事)
監事は、基本的に規約第3条の順に従って、2部会が役員の任期期間をつとめる。
- 2 (総会の議長)
総会の議長は、規約第3条の順に毎回持ち回りをつとめる。

(参 考)

- ☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務所を徳島新聞社内に置く。
- ☆昭和24年5月3日 事務所を憲法記念館(徳島公園内の県立図書館)内へ移す。
- ☆昭和25年12月18日 協会バッチを選定(図案は鬼塚副会長)
- ☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事(3名~5名)によることとする。
- ☆昭和46年4月29日 6部(日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道)のうえに商業美術(58年度からデザインに改称)が加わり7部組織となる。
- ☆平成23年6月1日 事務局を事務局長の住所に置く。

後援承認事務取扱規定

(趣 旨)

第1条 この規定は、徳島県美術家協会（以下「協会」という。）以外の団体が自主的、自発的活動として行う教育、文化及び美術等の各種行事に対して、協会が後援又は共催若しくは推奨（以下「後援等」という。）をする場合の承認事務の取り扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この規定においての後援とは、協会以外の団体が計画した行事に、協会が当該行事の奨励及び助長をすることをいう。

(基本的な留意事項)

第3条 協会が美術展等を承認する場合は、次の事項に留意しなければならない。

- (1) 「後援等を承認する」ということは「協会の名義使用を認める」ということであり、それだけに他に及ぼす影響等を十分考慮し、過誤のないようにすること。
- (2) 安易に後援等を承認すると、一般市民の誤解を招き協会の信用をそこなうこととなるので、慎重に取り扱うこと。

(行事の主催者)

第4条 協会が後援等を承認する場合の主催者は、次の各号の一に該当するものでなければならない。

- (1) 教育、文化など協会の7部門に関係した機関及び団体。
- (2) 国又は地方公共団体及びそれらの機関。
- (3) 教育、文化機関及び美術研究団体。
- (4) 公益法人（宗教法人を除く。）及びこれに準ずる公共的団体。
- (5) その他、協会が特に認めたもの。

(承認の基準)

第5条 協会が後援等を承認する場合の行事内容は、「教育、文化及び美術等の普及向上に寄与するもので、公益性のあるもの。」でなければならない。ただし、次の各号の一に該当するものは後援等の承認をしないものとする。

- (1) 政治的、宗教的中立性を侵すおそれのあるもの。
- (2) 特定の流派等で、協会の後援に適さないもの。
- (3) 営利又は売名（個人、団体を問わない。）の意図をもって企画されているもの。
- (4) 行事の企画、運営等が適切でないと認められるもの。

- (5) その他、協会が後援等をすることを不適当と認めるもの。

(後援等の申請)

第6条 行事の主催者は、協会に後援等の承認を得ようとするときは、徳島県美術家協会後援名義使用承認申請書（様式第1号）を原則として30日前までに提出しなければならない。

- 2 前項の申請書には、行事計画及び行事内容の記載を必要とする。また、その内容によっては、協会が必要書類の提出を求めることがある。

(承認決定の通知)

第7条 協会は、後援等を承認決定したときは、徳島県美術家協会後援名義使用承認通知書（様式第2号）により申請者（主催者）に通知するものとする。

(後援等の取消し)

第8条 協会は、後援等を承認決定した後において、当該行事が次の各号の一に該当したときは、後援等を取り消すものとする。

- (1) この規定の第5条の規定に接触することとなったとき。
- (2) 後援等申請書が虚偽の申請であったとき。
- (3) 承認決定の条件に違反し、協会の指示に従わなかったとき。

附 則

- 1 この規定は、平成24年6月9日から施行する。

徳島県美術家協会後援名義使用承認申請書

平成 年 月 日

徳島県美術家協会会長 様

申請者（主催者）

住 所 _____

団 体 名 _____

代表者名 _____ 印

電話番号 _____

次の行事について徳島県美術家協会の後援名義使用承諾を得たいので関係書類を添えて申請します。

新規 ・ 継続（該当に○印をつけてください）

行 事 名	
開催日時（期間）	平成 年 月 日（ ）～平成 年 月 日（ ）
開 催 場 所 名	
開催場所所在地	
共 催 団 体 名	
他の後援団体名	
入 場 料	有（詳細を記入： _____） ・ 無
後援承認通知書 送付先住所氏名	〒 _____ 氏名
行 事 概 要 （行事計画及び行事内容などを記載してください）	

注 1） 共催団体名、他の後援団体名は予定のものも含めて記載してください
 注 2） A4 に拡大コピーして申請書としてご使用ください

様式第 1 号

平成 26 年度事業報告

(1) 総 会 ◇平成 26 年 6 月 1 日（日）13:30

- ◇あわぎんホール 5F 会議室 6
- ◇平成 25 年度事業報告及び決算報告
- ◇監事報告・承認
- ◇平成 26 年度事業計画及び予算審議
- ◇その他

(2) 第 22 回放美展

- ◇平成 26 年 5 月 2 日（金）～ 6 日（火・振休）
あわぎんホール 3F 全展示室及び 4F 会議室 2～4
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道・デザインの 540 点展示
- ◇受賞者表彰式 平成 26 年 5 月 5 日（月・祝）
あわぎんホール 5F 会議室 6

(3) 第 69 回徳島県美術展

- ◇第 1 期 平成 26 年 10 月 11 日（土）～ 19 日（日）
あわぎんホール 3F 全展示室及び 4F 会議室 2～4
日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・デザインの 505 点展示
- ◇第 2 期 平成 26 年 10 月 21 日（火）～ 28 日（火）
あわぎんホール 3F 全展示室
書道 406 点展示
- ◇受賞者表彰式 平成 26 年 10 月 19 日（日）あわぎんホール 5F 小ホール

(4) 第 10 回徳島県子ども美術展

- ◇平成 26 年 10 月 17 日（金）～ 21 日（火）
あわぎんホール 4F 大会議室
徳島県内に在学する小・中学生の絵画・書写 1,704 点展示
- ◇第 10 回自然イベント「わた数しの街の芸術家さん」
- ◇受賞者表彰式 平成 26 年 10 月 19 日（日）あわぎんホール 5F 小ホール

(5) 関係会議 ◇ 4 月 18 日 第 1 回放美展運営委員会

- ◇ 8 月 6 日 第 1 回県展運営委員会
- ◇ 11 月 12 日 第 2 回放美展運営委員会
- ◇ 12 月 15 日 第 2 回県展運営委員会

- ◇ 2 月 1 日 理事会
- ◇ 2 月 1 日 第 3 回放美展運営委員会
- ◇ 2 月 18 日 第 3 回県展運営委員会

- (6) 各部会行事
- ◇洋 画 部 第 28 回洋画部会員展 (26.7.17 ~ 20) あわぎんホール
 - ◇写 真 部 写真部撮影会 (26.6.22) 京都方面
 - ◇デザイン部 デザイン部ポスター展 (26.2.14 ~ 16) 徳島県立近代美術館ギャラリー

- (7) 各種後援
- ◎光輪社書作展 (26.4.11 ~ 13)
 - ◎米寿記念ー春藤大耿書作展 (26.4.11 ~ 13)
 - ◎鳴門水彩美学展 (26.4.12 ~ 17)
 - ◎ニッコールクラブ第 15 回徳島支部展 (26.4.18 ~ 20)
 - ◎第 2 回児島尚山展 (26.4.25 ~ 27)
 - ◎河野宗之蒸油彩画個展 (26.5.29 ~ 6.2)
 - ◎第 32 回徳島平和展 (26.5.8 ~ 11)
 - ◎第 24 回「燎」4 人展 (26.5.15 ~ 19)
 - ◎第 37 回写真同人「炎」作品展 (26.5.30 ~ 6.1)
 - ◎木田英之「塾」課題写真展 (26.5.30 ~ 6.1)
 - ◎徳島アート 21 第 21 回展 (26.6.4 ~ 8)
 - ◎第 37 回八紅展 (26.6.12 ~ 15)
 - ◎第 11 回五果会書展 (26.6.13 ~ 15)
 - ◎書道企画展「墨にこだわった書道展」 (26.6.20 ~ 8.3)
 - ◎第 27 回長玄書道展・長原皋聖書作展 (26.7.4 ~ 6)
 - ◎第 73 回世代美術展 (26.7.10 ~ 13)
 - ◎和光社書展 (26.7.11 ~ 13)
 - ◎佐野比呂志遺作展 (26.7.18 ~ 21)
 - ◎第 10 回総合美術展 (26.7.19 ~ 21)
 - ◎第 35 回東光会徳島支部展 (26.7.19 ~ 21)
 - ◎第 63 回松林会書展 (26.7.25 ~ 27)
 - ◎四国大学文学部書道文化学科 第 28 回教員展 (26.7.29 ~ 8.3)
 - ◎上野照文 阿波おどり写真展「阿波の煌めき・Ⅱ」 (26.8.6 ~ 11)
 - ◎三美書研展 (26.8.22 ~ 24)
 - ◎第 3 回青藍会書作展 (26.8.29 ~ 31)
 - ◎徳島県高校生第 4 回書道席書創作コンクール (26.9.2 ~ 12.14)
 - ◎第 70 回記念青美展 (26.9.4 ~ 7)
 - ◎第 9 回写真同人「光」写真展 (26.9.5 ~ 7)

◎第 4 回木田英之と合同クラブ展	(26.9.5 ～ 7)
◎第 5 回グルッポフォト 23 写真展	(26.9.5 ～ 8)
◎第 79 回書芸院展	(26.9.4 ～ 7)
◎第 44 回直心会書展	(26.9.5 ～ 7)
◎第 59 回書協人展	(26.9.12 ～ 14)
◎第 13 回一心会書展	(26.9.26 ～ 28)
◎第 20 回徳島障害者芸術祭「エナジー 2014」	(26.10.7 ～ 12)
◎第 18 回旺美展	(26.10.8 ～ 14)
◎第 7 回徳島絵画美学展	(26.10.16 ～ 19)
◎祭り写真 11 人展	(26.10.24 ～ 26)
◎第 29 回藍美展	(26.10.31 ～ 11.2)
◎第 44 回芳藍書道展	(26.11.14 ～ 16)
◎第 13 回合同絵画展	(26.11.14 ～ 16)
◎第 5 回春琴とその仲間たち展	(26.11.15 ～ 17)
◎第 18 回せせらぎ会	(26.11.22 ～ 24)
◎第 10 回吉野川市書人会作品展 併催・新居藍州先生遺墨展	(26.11.22 ～ 24)
◎徳島版画 TokushimaPrintWorks2014	(26.11.27 ～ 12.1)
◎第 20 回六書会書展	(26.12.5 ～ 7)
◎第 35 回臨池書展	(26.12.6 ～ 7)
◎第 19 回尚真書展	(26.12.12 ～ 14)
◎第 43 回歳末チャリティー作品・色紙即売会	(26.12.13 ～ 15)
◎第 7 回阿波美術の森 作品展	(26.12.19 ～ 23)
◎第 5 回流輝会書展	(26.12.19 ～ 21)
◎第 20 回愁美展	(27.1.23 ～ 25)
◎第 39 回東玄書道会展	(27.1.30 ～ 2.1)
◎第 40 回四国大学書道文化学科卒業制作展	(27.2.7 ～ 11)
◎書道企画展「回顧・とくしまの書一」	(27.2.15 ～ 3.22)
◎第 35 回記念書研社展	(27.2.27 ～ 3.1)
◎第 25 回美術文化徳島支部展	(27.3.12 ～ 16)
◎第 49 回書道研究清潮書作展	(27.3.13 ～ 15)
◎平成 26 年度徳島大学書道部・OB 会書作展	(27.3.13 ～ 15)
◎第 46 回ナルトぴんぼけクラブ写真展	(27.3.13 ～ 15)
◎第 6 回徳島北高等学校美術部書道部合同展	(27.3.14 ～ 15)
◎第 37 回泉心会書作展	(27.3.20 ～ 22)
◎第 29 回正鋒会書展	(27.3.27 ～ 29)
◎第 7 回桂和会書展	(27.3.27 ～ 29)

平成 27 年度 役員名簿

会 長	河 崎 良 行	理 事	薄 田 玲 泉
副会長	松 下 雄 介	〃	能 仁 華 瑤
〃	西 野 和 男	〃	田 中 一 郎
事務局長	上 野 照 文	〃	福 井 章
理 事	岡 英 彦	〃	坂 本 三千一
〃	長 谷 壽	〃	沢 口 功
〃	土 井 洋 子	監 事	中 西 芳 雄
〃	土 方 るみ子	〃	伊 勢 浩 章
〃	榊 田 務	顧 問	長 尾 弘 子
〃	黒 崎 志 郎	〃	櫛 淵 魏
〃	露 口 敏 幸		
〃	田 中 シゲミ		
〃	平 木 美 鶴		
〃	上 野 照 文		
〃	橋 本 圭 祐		
〃	井 藤 光 章		
〃	林 敏 彦		
〃	増 田 寿		
〃	松 永 勉		
〃	鎌 田 邦 宏		
〃	井 下 俊 作		
〃	上 月 佳 代		
〃	七 條 猪三郎		
〃	多智花 佐代子		
〃	松 下 慶 一		
〃	犬 伏 絢		
〃	荒 井 彭 仙		
〃	隅 田 英 二		
〃	竹 田 和 代		

平成 27 年度 各部役員名簿

日本画部

部会長	岡 英 彦
委 員	長 尾 弘 子
"	西 野 和 男
"	長 谷 壽
"	土 井 洋 子
"	土 方 るみ子
"	柳 田 一 子
監 事	中 西 芳 雄
"	日 浦 猛 史
事務局員	日 浦 猛 史
"	柳 田 一 子

洋画部

部会長	梶 田 務
委 員	平 木 美 鶴
"	黒 崎 志 郎
"	長 尾 弘 久
"	中 辻 奈美枝
"	西 川 周 三
"	玉 田 秀 子
"	露 口 敏 幸
"	鈴 木 敬 子
"	嵯 峨 潤 三
"	大 西 道 夫
"	近 藤 克 子
"	手 塚 てる子
監 事	田 中 シゲミ
"	伊 勢 浩 章
事務局員	西 川 周 三
"	田 中 シゲミ

写真部

部会長	上野照文
委員	櫛渕魏
"	橋本圭祐
"	井藤光章
"	林敏彦
"	増田寿
"	田村泰弘
"	伊達照子
"	大和健司
"	森住博
"	川眞田慶治
"	堀口幸男
"	野藤みきよ
"	梅本貞範
"	岩崎英昭
"	平野史子
"	賀川泰広
"	船越正文
"	大津勝治
"	武地雅
"	土橋成行
"	野口佳一
"	三木理司
"	森内昭男
"	田中伸廣
"	井上憲治
"	阿部啓三
監事	田村泰弘
"	森住博
事務局員	井上憲治
"	阿部啓三

彫刻部

部会長	松永勉
委員	濱口惠
"	佐藤隆
"	井下俊作
"	鎌田邦宏
"	居上真人
"	東光司
監事	上月佳代
"	武田亜希子
事務局員	松永勉
"	木村大志

美術工芸部

部会長	多智花	佐代子
委員	山上	馨
"	七條	猪三郎
"	矢野	款一
"	松下	慶一
"	森	賢一
"	橘	惠
"	犬伏	絢
"	藤井	哲信
"	田村	栄一郎
"	松本	宏
"	大貝	貞雄
監事	森	明治
"	斎藤	和彦
事務局員	森	賢一
"	藤井	哲信

書道部

部会長	荒井	彭仙
委員	東南	光
"	伊丹	東龍
"	亀石	文苑
"	河野	真流
"	清水	桂月
"	島田	小園
"	春藤	大耿
"	薄田	玲泉
"	隅田	英二
"	武市	鳴雲
"	竹田	和代
"	多田	清芳
"	玉城	乾香
"	富久	鳴泉
"	中尾	勝子
"	長原	皋聖
"	永松	春苑
"	西	南龍
"	能仁	華瑤
"	長谷	美峰
"	浜	佳香
"	三浦	富美代
"	美馬	幾美賀
"	宮井	青雨
"	青木	東原
"	馬居	汀香
"	大下	江波
"	沖田	唐谷
"	川上	虹泉
"	河野	多美

委 員	川 村 春 琴
"	洲 崎 忠 峰
"	鈴 木 恵 理
"	高 田 青 蓮
"	高 柳 早 秀
"	谷 口 清 水
"	花 本 清 香
"	福 永 美 泉
"	藤 村 柳 葉
"	丸 岡 春 暁
"	南 溪 石
"	八 木 藍 玉
"	吉 田 翠 彩
"	赤 川 景 舟
"	東 弥 生
"	井 上 虹 雨
"	上 田 輝 芳
"	内 田 麻 紀
"	阿 部 博 子
"	岡 島 順 子
"	加 村 喜美子
"	河 野 静 江
"	倉 本 景 雨
"	下 村 清 子
"	鈴 江 美音子
"	中 谷 史 子
"	西 谷 香 峰
"	藤 原 育 代
"	宮 守 崇 流
"	向 井 京 子
"	森 光 翔
"	山 本 景 琴

委 員	朝 三 皐 如
"	岩 本 志 豪
"	大 西 清 葩
"	岡 崎 啓 香
"	川 端 康 清
"	岸 緑 香
"	幸 田 清 尚
"	芝 原 醒 鶴
"	高 瀬 大 峯
"	玉 城 乾 舞
"	仁 木 志 香
"	平 岡 幽 琴
"	丸 田 恵 風
"	森 本 成 玉
"	山 口 幽 徑
"	日 下 溪 翠
"	林 桂 翠
監 事	山 口 華 城
"	前 川 古 舟
事務局員	長 原 皐 月
"	林 美 雪

デザイン部

部会長	田 中 一 郎
委 員	坂 本 三千一
〃	福 井 章
〃	沢 口 功
〃	敷 島 のり子
〃	吉 本 實
〃	北 島 豊 嗣
〃	四十宮 隆 志
〃	西 林 良 枝
〃	斎 藤 剛
監 事	山 内 典 子
〃	佐々木 奏 美
事務局員	吉 本 實
〃	四十宮 隆 志

第 23 回放美展記録

会 期 平成 27 年 5 月 2 日（土）～ 6 日（水・振休）

時 間 10：00～17：00（入場は 16：30 まで）

会 場 あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

日本画

〔審査員〕 岡 英彦 中西 芳雄 日浦 猛史

〔遺 作〕 中川 健

〔放 美 賞〕 富永 博子

〔優 秀 賞〕 西岡 ちほ 栞村友加梨

〔四国大学賞〕 亀井 純子

〔梅岡トヨ賞〕 阿部梨々花

〔入 選〕 水田 貴子 森本 秀代 井上美恵子 川真田哲雄 中嶋 昌子
岩木 寿美 中村 繁子 鈴木 恵子 天羽 弘毅 久保 守近
齋藤 久男 竹田 彩夏 柿本 遥香 鈴木 妙花 滝口 彩花
仲尾 和子

洋 画

〔審査員〕 露口 敏幸 長尾 弘久 田中シゲミ

〔無 鑑 査〕 野口 暁子

〔放 美 賞〕 谷 慎也

〔優 秀 賞〕 眞鍋たえ子 岩井 春美 小笠 正明 丹生 照子 高木 宏
吉岡 厚子 山口 明美

〔四国大学賞〕 兼西 愛

〔梅岡トヨ賞〕 鈴江陽一郎

〔入 選〕 杉本 祥子 脇本 清美 日岡美智代 岩井 千晴 新藤佐代子

阿部 末美	富岡 晴恵	杉村 良典	竹原 良亮	大坪潤一郎
尾西 敬子	田中千恵子	中野 芳輝	武田 洋子	坂東 悦子
前川フキ子	細谷 孝子	小笠原秋子	多田美千代	井上 徹
河野 博匡	長尾賀代子	市原 幸子	篠原 稔	立石かよ子
遠藤公美子	西川 照美	齋藤 拓矢	為実美恵子	横井嘉世恵
白草 由子	林 敏雄	坂東 弘子	土橋 正子	黒島 貞子
住友 政雄	馬淵 博子	米津 良子	大松智恵子	林 茂子
田中 敏雄	野上 恵子	高橋 都子	地紙 昭男	米沢 博
下内 一弘	森本 操	答島 和年	福田 紀子	佐々木公子
高木 幸美	野口 義仁	福本 恵	長坂 芳子	横関 義弘
和田 寿子	賀川紀美子	梅津美砂代	川中比沙子	齋藤 裕介
岡田 亜実	吉田 玲子	宮内 一子	東原 綺子	中村 由春
原 愛紗	野村 友妃	小西裕一朗	田上 綾菜	佐々木瑞穂
大西 道夫	河野 真央	多川 彩香	三好 佑季	中村 芽生
鈴木 敬子				

写 真

[審 査 員]	上野 照文	林 敏彦	井藤 光章		
[無 鑑 査]	田中 伸廣	野口 道子	川西 明雄	多田 進	島 廣幸
[放 美 賞]	高橋 一恵				
[優 秀 賞]	早瀬 茂	長岡 和美	岸田 義市	福井 純子	熊谷美智子
	吉田 隆之	遠藤 博敏	阿部 久雄	松崎 真弓	岡本 早苗
	圓藤由貴子	有馬 正司	大西 啓子	姫野 博司	おどみ岐調
	増田 実				
[四国大学賞]	井上 栞				
[梅岡トヨ賞]	三木万理子				
[入 選]	幾田 茂仁 ⁽³⁾	福居 幹夫 ⁽²⁾	岡 三希生	喜多 昌弘 ⁽³⁾	大和 章人 ⁽³⁾
	松村久美子	三谷美津子	平澤 昭世	山田 卓	島 祥子

佐藤 義雄 ⁽²⁾	齋藤 幹夫	安丸 弘二	西岡 祥一	郡 英明
鈴江 純史 ⁽²⁾	小笠原弘明 ⁽³⁾	岸田 義市	山口 正明 ⁽²⁾	板東よしお
三原 弘枝 ⁽²⁾	竹内 好文 ⁽²⁾	松浦 昭代	小川 岩雄 ⁽²⁾	中殿千梨華
片山 裕也	福見 尚美	猪井 美紀	野田 賢	鎌田 克臣
泉 清美 ⁽²⁾	福井 純子	谷 嘉明	上岡真紀代 ⁽²⁾	水口 ゆみ
原田 章一	板東美智代 ⁽²⁾	熊谷美智子	妹尾 隆浩 ⁽²⁾	橋本 雅子
吉田 隆之	水口 義行 ⁽²⁾	福原 敏雄	住友 徳 ⁽²⁾	庄野 里美 ⁽²⁾
久保 朋也	Tamago	埴淵 節子	古岡 友子	田村 清憲
中野みどり	福井 邦博	阿部 久雄	松崎 真弓	春田 操
野藤みきよ	野藤 敏美 ⁽²⁾	鍋島治世子 ⁽²⁾	滝畠 豊美	賀川 泰広
岡本 早苗	辺見 博子 ⁽²⁾	圓藤由貴子	谷 ひづる ⁽²⁾	鈴江久美子
郡 利明	山田 喜吉	大島 梨香	山上 堯 ⁽²⁾	山上 道子 ⁽²⁾
大西 啓子 ⁽²⁾	大西 忠 ⁽²⁾	山下 助信	小原 英児	姫野 博司
加藤 千明	長尾 守	庄野 和博	高曾根信義	おどみ岐諷
井内 哲也	増田 実	喜多 省三	佐藤美智子	秋山 修一
高橋 一恵 ⁽²⁾	原 和夫 ⁽²⁾	宮本 幸治 ⁽³⁾	西岡まゆみ ⁽³⁾	

彫 刻

〔審査員〕 居上 真人 鎌田 邦宏 上月 佳代

〔無鑑査〕 大貝 寿子

〔放美賞〕 楠口 銀平

〔優秀賞〕 大貝 貞雄

〔四国大学賞〕 三木七海巨

〔梅岡トヨ賞〕 檜 恵理香

〔入 選〕	佐治 孝	益田 耕次	松田 文	吉田 陽子	大和 楓
	横畠 寛 ⁽²⁾	下込 友香	長尾 敏子	田村 康太	手塚 健一
	毛登山歩生	秋山紗弥花	渡辺 由菜	藤川 真美	

美術工芸

[審査員]	多智花佐代子	森 賢一	森 明治		
[無鑑査]	大貝 寿子	吉田 陽子			
[放美賞]	大貝 貞雄				
[優秀賞]	武田 潤子	松本 宏	東條 容子	原田 明實	家形笑美子
[四国大学賞]	吉本瑠々音				
[梅岡卜日賞]	阿部菜々子				
[入選]	原田 明子	岡崎祐己子	石井 春夫	長尾賀代子	藍原 房補 (2)
	武田 潤子	平瀬 進也	遠藤 好子 (2)	遠藤 勇	久保 英樹 (2)
	四宮 千代	板東 啓子	下内 良一	平尾 静子 (2)	村川 榮一
	美馬 吉彦	木村 秋夫	和佐 勝代	阿部 能則	阿部 巍
	戸島 裕明	大貝 貞雄	眞鍋 諭弘	福原 房子	筒井 節子
	島田 良子	手塚 健一	松家 英樹	九鬼 公香	林 滋子
	河野 美枝	久米 和子	櫻間 修子	河野美和子	東條由記子
	小笠原久美子	泉 良子	亀井 良子	中島美和子	宮本 真弓
	日高 琴美	前野 亮治	村上 綾子	上田 優	高島 悦江
	後藤 真理	前川 政秀	高橋 文子	横井嘉世恵	吉野 由紀
	板東 湧允	塩谷 真奈	島田 彩乃	湯村 真衣	青木 壽美
	巽 安子	近藤佐起江 (2)	宮本 薫	近藤 眞子	家形笑美子
	内名 守	中西 達也	山村 明敬	渡辺 忠夫	西内 貞二
	佐治 孝	朝田 恵子	森 克江	阿部まきみ	福家眞一郎
	尾藤 芳尚	松永 卓司	三宅 真衣	長尾 敏子	高瀬 裕司
	岡本 郁雄				

書道

[審査員]	山口 華城	富久 鳴泉	前川 古舟
[放美賞]	村田 苔石		

〔優 秀 賞〕	益岡 輝実	上野 益泉	井野 恵風	佐野 文太	石川 翔子
	西宇 明美	正見 千恵	児玉 幸子		
〔四国大学賞〕	田村 元帥				
〔梅岡トヨ賞〕	大木緋奈乃				
〔入 選〕	洲崎 忠雄	松岡 正峰	市原 彩光	細井 青峯	谷本 藍泉
	柳本 真苑	岸 浜子	四宮 花奈	大和 公風	下藤 朱莉
	西改 俊子	辻 光石	中西 麻雲	斎藤千代子	岡本 芳川
	渡部 敦子	木内 暎光	小笠 英文	清水 芳雲	宅井 美穂
	水本 健斗	梅岡 綾	笹 美咲	七條あかね	阿部千瑛美
	福永 優	小出真優子	吉成 春菜	兼松沙也香	高木 晴香
	豊口ほのか	高橋 優実	岡島 朱里	浜 ななみ	増原 芹華
	徳前 郁恵	竹田 絢香	池田 馨月	丸岡 真弓	新浜 啓歩
	井内 城雲	三好 華仙	松本 観翠	泊 奈央	大倉 花菜
	香川百々花	小原 楓	四宮 可苗	板東 杏樹	池内 愛美
	形山 華香	佐藤 祥子	武澤まどか	四宮 仁苑	西 朱理
	岡本絵梨佳	森本 愛奈	佐藤 榛花	北野 優希	秋成 漣
	青木 香璃	岩佐 和奏	藤川 咲	東 日奈子	正見明日香
	新田 彩乃	島尾 美穂	真鍋 花菜	藤川 千尋	藤本 紗織
	山本理紗子	新居 京華	畠内 陽菜	岩城 真由	山田 真実
	山本 采弥	大西 沙弥	渡辺 早紀	伊藤 景風	宮崎 弘子
	後藤真里奈	杉本 智子	津田早矢賀	町田 哲子	高田 啓子
	坪井 佳代	笠井 美幸	船崎スエ子	大石 康正	幸田 清尚
	高瀬 大峯	松本 華奈	川端 康清	坂尾 竟成	森本 成玉
	遠藤 禎子	今治 宏美	小野 宙成	春川 青超	篠野 未歩
	友廣 佳奈	井内 清月	大胡恵里香	梶川 佳奈	梶川 葉月
	佐藤由紀代				

デザイン

[審査員]	坂野美恵子	吉本 實	四十宮隆志		
[無鑑査]	佐々木奏美				
[放美賞]	田村 あい				
[優秀賞]	島田 千聖	山野井宏宗	三木ひより	山本 真子	杉本 早
[四国大学賞]	須崎 上総				
[梅岡トヨ賞]	粟飯原早希				
[入選]	林 采花	山田 有里	林 敏雄	奥谷 暁李	豊田 友紀
	岩井 由実	板東 未記	田中 綾乃	小村 智美	三笠 由季
	大森 加澄	尾上 実椰	前野 瑞希	井坂 明海	若泉かれん
	谷川 詩織	福井 桃菜	石田 小波	蔭山 桜湖	福島 颯紀
	久米 千裕	村上 達也	中飯 美花	松下穂乃果	鳥井 衣里
	定國 茉奈	岡田 典子	兼西 奈緒	新居 穂佳	奥山 幸保
	藤井 香菜	河野 瞬生	瀨 怜爾	流 ひかり	北野梨夏子
	美保 春佳	天満 琴乃	前田 陽香	みつほしえり	福田 優介

第 23 回放美展出品・入選等状況

区分 \ 部門		日本画	洋 画	写 真	彫 刻	美術工芸	書 道	デザイン	計
出 品 点 数		30	156	399	27	126	181	124	1,043
出 品 者 数		30	141	162	21	87	151	121	713
入 賞 ・ 入 選	放 美 賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	優 秀 賞	2	7	16	1	5	8	5	44
	梅岡トヨ賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	四国大学賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	入 選 数	16	76	125	15	81	106	40	459
	計	21	86	144	19	89	117	48	524
	入 選 率	70.0	55.1	36.1	70.4	70.6	64.6	38.7	50.2
選 外	落 選 数	9	70	255	8	37	64	76	519
	落 選 率	30.0	44.9	63.9	29.6	29.4	35.4	61.3	49.8
無 審 査 出 品	審 査 員	3	3	3	3	3	3	3	21
	無 鑑 査	0	1	5	1	2	0	1	10
	計	3	4	8	4	5	3	4	31
展 示 数		24	90	152	23	94	120	52	555

第 23 回放美展公募規定

部門 区分	日本画	洋 画	写 真	彫 刻
書類受付期限	平成 27 年 4 月 9 日（木）			
搬 入 日	平成 27 年 4 月 29 日（水・祝）			
搬入場所	あわぎんホール（県郷土文化会館）3 階展示室			
審 査 日	平成 27 年 4 月 29 日（水・祝）			
審 査 員	岡 英彦 中西 芳雄 日浦 猛史	露口 敏幸 長尾 弘久 田中シゲミ	上野 照文 林 敏彦 井藤 光章	居上 真人 鎌田 邦宏 上月 佳代
出 品 料	1 点目 3,000 円 2 点目・3 点目各 1,000 円 高校生・高専生は 1 点 1,000 円			
応募資格・出品制限等	・未公開作品に限る ・高校生以上 ・県内外不問 ・作品のみ送付は不可 ・1 人 3 点以内			
入 賞	・放美賞 各部門 1 点 ・優秀賞 出品点数 25 点につき 1 点 ・梅岡トヨ賞 各部門 1 点（高校生・高専生の入選者から選出） ・四国大学賞 各部門 1 点（25 歳以下の入選者から選出）			

部門 区分	美術工芸	書 道	デザイン
書類受付期限	平成 27 年 4 月 9 日（木）		
搬 入 日	平成 27 年 4 月 29 日（水・祝）		
搬入場所	あわぎんホール（県郷土文化会館）3 階展示室		
審 査 日	平成 27 年 4 月 29 日（水・祝）		
審 査 員	多智花佐代子 森 賢一 森 明治	山口 華城 富久 鳴泉 前川 古舟	坂野美恵子 吉本 實 四十宮隆志
出 品 料	1 点目 3,000 円 2 点目・3 点目各 1,000 円 高校生・高専生は 1 点 1,000 円		
応募資格・出品制限等	・未公開作品に限る ・高校生以上 ・県内外不問 ・作品のみ送付は不可 ・1 人 3 点以内		
入 賞	・放美賞 各部門 1 点 ・優秀賞 出品点数 25 点につき 1 点 ・梅岡トヨ賞 各部門 1 点（高校生・高専生の入選者から選出） ・四国大学賞 各部門 1 点（25 歳以下の入選者から選出）		

- 注 1) 入選数は出品点数に応じての規定数とする
 2) 選外作品及び展示作品は各部門の決められた日時までに搬出すること
 3) 所定の期日までに搬出しなかった作品は出品者の送料負担（梱包料金を含む）で返送する

第 70 回記念徳島県美術展記録

会 期 第1期 平成27年10月9日(金)～14日(水) 日本画・洋画・彫刻
 第2期 平成27年10月16日(金)～21日(水) 写真・美術工芸・デザイン
 第3期 平成27年10月23日(金)～28日(水) 書道
 時 間 9:30～17:00
 会 場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

日本画

[審査員] 中島 千波
 [特別出品] 長尾 弘子 西野 和男 岡 英彦
 [招 待] 土方るみ子 土井 洋子 中西 芳雄 日浦 猛史
 [無 監 査] 柳田 一子
 [賛助出品] 長谷 壽
 [特 選] 反田 卓(徳島県美術家協会会長賞)
 [70回記念賞] 大塚さや香
 [準 特 選] 久保 守近 森崎 雅子 有井 和子
 [奨 励 賞] 宮越 千佳 森本 秀代 澤 真弓
 [入 選] 阿部梨々花 植田 忠生 竹田 彩夏 水田 貴子 西條日奈子
 亀井 純子 天羽 弘毅 富永 博子 井上 弘子 清水佳代子
 西岡 ちほ 鈴木 恵子 西村美也子 吉村 敬子 新居麻里子
 齋藤 久男 梶浦 千瑞

洋 画

[審査員] 堀 研
 [特別出品] 榊田 務
 [招 待] 清水 亟悞 露口 敏幸 長尾 弘久
 [無 監 査] 玉田 秀子
 [賛助出品] 黒崎 志郎 中辻奈美枝
 [特 選] 二條 均(徳島県知事賞)
 [70回記念賞] 高木 宏
 [特 選] 土橋 正子
 [準 特 選] 広瀬 直 田中 康子 鎌田まゆみ 藍谷 浩平 榊 和也

	菊本 静子						
[奨励賞]	坂東 悦子	浦川 起世	大坪潤一郎	岩井 春美	阿部 昌子		
[入選]	前川フキ子	平木 雅代	大串 直行	阿部 幸子	眞鍋たえ子		
	島村 英之	三谷ミヤ子	三好 佑季	和田 寿子	埴渕 照二		
	林 敏雄	伊勢 浩章	巽 正子	新井 慧	黒島 貞子		
	三谷多美子	中村 芽生	渡邊 茜	佐々木公子	藤井 文明		
	遠藤 博之	竹原 良亮	丹生 照子	西崎 志帆	田中 敏雄		
	宮田 京子	富岡 晴恵	大久保芳和	脇 裕子	原 静子		
	杉本 祥子	大南 芳子	高木 紘子	島田 純江	小笠原秋子		
	鈴江陽一郎	坂東 富恵	富浦 道子	田浦 佳江	増井 厚子		
	三木田眞由美	岩井 千晴	下内 一弘	近藤 克子	鈴木 敬子		
	小泉たか子	笹田 義宏	久米 政雄	林 静代	野口 義仁		
	野上 恵子	米津 良子	手塚 充子	谷口 克子	細川 禮子		
	瀬川 政子	岸本 花子	山口 明美	姫田 正義	馬渕 博子		
	平山 倫子	前野 亮治	川人 則子	井本 良明	梅津美砂代		
	白草 由子	中村 恵一	岡本 英見	谷 慎也	遠藤 誠一		
	眞野 尚枝	市原 幸子	答島 和年	森 幸江	後藤 和子		
	高橋 照子	花待 昭文	小西 正	小笠 正明	青木 幸子		
	浅野 近男	西川 周三	田中シゲミ	柏木 頼子	長坂 芳子		
	河本多恵子	藤本 誠子	手塚てる子	佐藤 敬子	遠藤公美子		
	原 たず	西村 数美	大津 憲文	立石かよ子	早内 陽子		
	櫻木 直美	松江 直子	藤川佐由美	嵯峨 潤三	西川 敬子		
	山上 勇	濱田八重子	鈴木 陽子	松下 総子	富田 君子		
	福本 恵	吉岡 厚子	渡辺 澄恵	大西 道夫	田中千恵子		
	中村 俊夫	久保 和子	米沢 博	渡辺カツコ	橋本 健男		
	横島 寛	桑田 育子	井内美智代	川上 晴美	富本 勝子		
	宮本 典子	上田 幸子	日野 邦恵	馬渕 尚子	石幸 忠雄		
	新藤佐代子	武田 洋子	阿部 末美	宮内 一子	尾西 敬子		
	細谷 孝子	近藤 栄克	高林 泉水	藤井 香世	藤本 千秋		
	加川由紀子	藤本 聡実	天野 功治	小浜 敏也	村川 千代		
	前田みのる	藤井 博之	大西 文代				

写真

[審査員]	江成 常夫						
[特別出品]	柳瀬 魏	上野 照文					
[招待]	木田 英之	勝西 雅夫	三好 和義	森 賢一	橋本 圭祐		
	前浦 芳久	林 敏彦	古井 謙吉	井藤 光章	増田 寿		
	柳本 正	大和 健司	船越 正文	堀淵 完治	岩崎 英昭		
	久保 英樹	堀口 幸男	森住 博				
[無監査]	大津 勝治						
[遺作]	西條 征二						
[70回記念賞]	野藤みきよ						
[特選]	佐野 和史	平野 史子					
[準特選]	石川 徹雄	平澤 澄子	山田 卓	常陸 章	篠原 治雄		
	富岡佳代子	武地 雅	宮前 稔	大栗 隆夫			
[奨励賞]	水口 義行	山下 助信	谷 賢太郎	福井 純子	前川わかな		
	岡本 早苗	森住 孝義	岩本 宏子				
[入選]	野藤 敏美	野藤みきよ	国見 良幸	城田 清志 (2)	宮本 幸治		
	中垣 節	庄野 里美 (2)	松家 安信	大島 茂信	池添 秀信		
	工藤 健志	田中 伸廣	大和 章人 (2)	平澤 昭世	稲井 建司		
	小原 英児	佐滝 宏和	林 好一	郡 利明 (2)	板東 泰雄		
	日出 顕作	須原 仁志 (2)	寺内 靖	上岡真紀代	板東美智代		
	加藤 千明	泉 清美	吉田 隆之	齋藤 幹夫	中野みどり		
	福原 敏雄	石本 隆二 (2)	山上 堯 (2)	阿部 久雄	福居 幹夫		
	鈴江久美子 (2)	埴淵 節子 (2)	板東よしお (2)	南 敦子	原 嘉久仁		
	水口 義行 (2)	福田 勉	姫野 博司	鳥井 敬一	西岡まゆみ (2)		
	篠原 治雄	中山 洋三 (2)	棚橋 仁志	福井 純子	福井 邦博		
	竹内 好文	団 芳男	矢部 弘子	増田 実	有馬 正司		
	辺見 博子 (2)	鍋島治世子	賀川 泰広	福永 豊	谷 嘉明		
	高橋 一恵 (2)	大塚 尚	熊谷美智子	喜多 昌弘	佐藤 和良 (2)		
	松浦 孝	中村健二郎	長田 貞男	三好 輝美	田村 清憲		
	勝瀬 彪 (2)	林 広司	おどみ岐調 (2)	宇治 秀壽	高木 信昭		
	山下 修司	秋山 修一 (2)	森住 孝義	三谷美津子	郡 英明 (2)		
	岩本 宏子 (2)	堤 信寿	古岡 友子	長尾 守	谷崎 泰司 (2)		
	田中 栄子	森内 昭男	大西 啓子 (2)	大西 忠 (2)	津川 和彦		
	阿部 啓三 (2)	野口 佳一 (2)	平野 史子 (2)	佐治 孝 (2)	川眞田慶治		
	井上 憲治	田村 泰弘 (2)					

彫 刻

[審 査 員]	三沢 厚彦					
[特別出品]	河崎 良行	佐藤 隆	松永 勉			
[招 待]	井下 俊作	鎌田 邦宏	居上 真人	上月 佳代		
[無 鑑 査]	武田亜希子					
[贊助出品]	長岡 強					
[特 選]	近藤 美暁	(徳島県教育委員会教育長賞・70回記念賞)				
[準 特 選]	東 光司	横畠 寛				
[奨 励 賞]	二宮 治夫	吉田 陽子				
[入 選]	大貝 寿子 ⁽²⁾	高丸 公相	盛 信太郎	木村 大志	トラビス・フリンク	
	小林 正則	原田 明子	三木七海巨	渡辺 由菜		

美術工芸

[審 査 員]	山下 義人					
[特別出品]	七條猪三郎	松下 雄介	多智花佐代子			
[招 待]	松下 慶一	森 賢一	橘 恵	犬伏 絢	斎藤 和彦	
	森 明治					
[贊助出品]	中川 存	矢野 款一				
[特 選]	田村栄一郎	(徳島市長賞)				
[70回記念賞]	原田 明實					
[準 特 選]	鳥井 明子	松本 宏	前野 亮治	松永 卓司		
[奨 励 賞]	丸居 哲雄	高瀬 裕司	近藤美佐子			
[入 選]	吉田 陽子 ⁽²⁾	中西 達也	手塚 健一	平田志保子	阿部 巍	
	宮本 薫	横井嘉世恵	福本美智代	四十宮年代	大貝 寿子 ⁽²⁾	
	四宮 千代	高瀬 裕司	上田 優	平井 恵子	遠藤 好子	
	遠藤 勇	板東 啓子 ⁽²⁾	西澤 淳子	阿部 能則	石田 節子	
	太田 裕子	大貝 貞雄 ⁽²⁾	小田 正子	小川 光	前田 道子	
	島田 良子	鈴江 正子	高田 彰一	平尾 静子	藍原 房補	
	橋本 正子	石井 春夫	大西 君代	亀井 良子	元井 真紀	
	大川 雅代	西 美稚子	前川 政秀	谷口 武平	渡辺美恵子	
	穴山千代子	清水 雄太	小林 鳳美	三橋 玄児	旭 鈴代	
	梶本 雅樹	家形笑美子	戸田 智	松本 宏	青木 壽美	
	平瀬 進也	石口 明美	筒井 節子	武田 潤子	高橋 正昭	

田中木美子	鍋島アヤ子	住 廣子	松原 敦子	村上 綾子
梶原 浩二	森本 静子	近藤佐起江 ⁽²⁾	藤中 敦代	久保 英樹 ⁽²⁾
山村 明敬	長尾賀代子	戸島 裕明	藤井 哲信	松永 卓司
斎藤 康男	清原 真弓	坪井なつき	藤川 三世	西内 貞二
真鍋 謙弘	吉野 由紀	阿部 俊江		

書 道

[審 査 員]	鬼頭 墨峻	吉川美恵子	小竹 石雲		
[特別出品]	西 南龍	春藤 大耿	荒井 彭仙		
[招 待]	宮井 青雨	長原 皋聖	芝原 醒鶴	前川 古舟	清水 桂月
	美馬幾美賀	中谷 史子	長谷 美峰	川上 虹泉	日下 溪翠
	岡島 順子	竹田 和代	山口 華城	藤若 美風	武市 鳴雲
	中尾 勝子	富久 鳴泉	永松 春苑	島田 小園	坂本 霄風
	浜 佳香	隅田 英二	多田 清芳	玉城 乾香	薄田 玲泉
	能仁 華瑤	高田 青蓮	三浦富美代	宇山 泰鳳	亀石 文苑
	岩本 志豪	林 桂翠	山口 幽径	米澤 東籬	戸出 芳泉
[無 鑑 査]	向井 京子	平岡 幽琴	詫間 勝陽	中川 一鳳	
[賛助出品]	東 南光				
[特 選]	阿部 博子 (徳島新聞社長賞)				
[70回記念賞]	野口 有香				
[特 選]	後藤 知美	佐野 陽子	吉平 順子	上田 久恵	高瀬 善郎
	玉城 若菜				
[準 特 選]	谷 令子	井元 京子	矢部 知子	沖田 章代	谷本真由美
	松村 史子	宮守 とみ	折野 佳子	賛田美恵子	日下壽美子
	森本 陽子	桐生 弘美	村田 泰輝	佐藤由紀代	
[奨 励 賞]	松永 浩子	石川 翔子	立石 充	稲井 知子	寺田 美穂
	澤本 鈴美	河野紀代子	古谷 和代	山本 愛美	加村喜美子
	大西千鶴子	清水美津子	阿部 公恵		
[入 選]					
漢字の部					
	丸岡 真弓	益岡 輝実	久保 又一	山中 佳子	黒田 美穂
	丸岡 由美	吉田 鈴子	後藤 郁子	山口 幸子	清水 宏子
	木内 文子	中西 純子	斎藤千代子	栗田 正治	上田美千代
	川辺 光俊	豊浦ヨシ子	花本ふくみ	本庄たゑ子	三谷 展子

石川 房子	坂田 貴子	若江 智	北村 浩子	盛 知子
泉川真理子	島 利子	西野 道夫	細井 守	高松 輝子
南 知枝	真鍋 洋子	青木 義人	板羽由美子	井上 晏野
井上 和希	井上 咲季	岡 歩美	金子 貴史	郡 彩佳
近藤 紀子	篠山 秀子	佐野恵美子	關山 光	西村 珠希
美馬 治	山下弥栄子	田上 洋子	鈴木エリ子	春藤 真紀
井上 公子	片山 芳明	中西 淑子	馬居美智恵	若木 恭子
西岡 絹恵	秦 知美	宮脇 郷子	吉田 憲弘	田中 育子
田中 偉嗣	田村 元帥	谷本 洋子	梅津 郁子	三好 啓子
佐渡 佳子	小林 忠志	佐藤 美和	磯川 味佳	一宮 明美
恵美 恵子	高柳 由美	田中 利子	島 智子	立石 泰生
伊達三智子	岡部ひとみ	寺澤久美子	瀬山奈緒美	林 みゆき
高橋 信子	多田みどり	板東 一男	森本 晃奈	坪井恵利佳
野村佳余子	荒井 和子	八木 澄江	井上 真梨	後藤田美智恵
井内 久子	三好 元子	井野めぐみ	河野多美子	森本 裕子
近藤 美香	藤山真由里	佐々 京子	後藤 紀代	青木 博美
矢部 育実	森 和子	河野 由紀	岡 幸江	鎌谷 幸代
尾形三千代	鴻野千賀子	鳩成 広美	安友 彰子	米倉由加里
熊代 厚子	宇山 和治	長井あゆみ	阿部 千明	谷 弘美
浅川 陽子	横田 典子	藤永 真里	森本真由美	福家 佳余
上野 益代	西改 俊子	中川恵美子	四宮 恭子	岡本美津代
奥田 文子	折野 茂幸	三崎美佐代	久積富美子	柳本 真弓
四宮 仁美	陶久 房枝	大野シゲ子	笠原 笑子	杉本 妙子
村部 幸子	大下 富江	川道 伸弘	中村 美子	土井 和也
日下 美絵	萩原 陽子	辻 尚子	中尾三智子	坂本 敬子
石井 瞳	木村 礼子	山内希与子	東條 裕子	坂東加奈子
安原 照代	中川 泉	四宮 千春	稲木 裕美	

篆刻の部

吉村 敬子	射場 博子	田淵 勲	竹内やす子	仁木恵美子
森上佳衣子	横田 雅夫	蓑毛 真琴	小林 義治	田村 憲正
中尾三智子	川道 伸弘			

仮名の部

寺尾 俊通	樫原 知義	山蔭 和代	井上 まり	吉田 純
倉本 節子	皆谷 露子	赤川久美子	山本 美幸	佐川 公子
石橋 幸恵	仁井 和美	一ツ松真弓	背川 章子	沖野 道代
野木 友美	稲江 司子	福村喜代子	大西 順子	新納 房子

原口 栄子	松本由希子	楠瀬 恭子	井上 彰夫	遠藤 由子
廣瀬 久代	野上 美紀	竹中 敏恵	高橋加奈子	住友 裕子
森 裕美子	喜多美千代	吉田 裕美	芳田 知子	関根 史子
中筋 良江	近藤真千子	井上小百合	吉田 恵	中田須美子
藤原 育代	伊月 愛子	鈴江美音子	杉本 裕子	山本 恵子
中村 公子	小西 千恵	金子 博明	町田 哲子	向井 境子
岡本 美佳	田村富士子	和泉かず子	脇坂 優	濱井 光代
田岡佐記子	原田 葉子	藤井三樹子	畠山 政子	山橋不二子
吉田 好孝	高木美賀子	笠原小夜子	内田 麻紀	有持恵美子
菖蒲 和代	佐藤 一美	佐藤 成美	金磯李可子	根木屋和代
土佐 朱美	濱口 恵	堀江奈菜子	篠賀 知代	坂本 恵美
今津 英子	稲井由加里	糺 真理子	久積希実子	齋藤 弥生
坂本 敬子	伊藤 秀子	岩田美由希	森本 明美	友成 史子
内田美代子	松下 智子			

近代詩文の部

正見 千恵	丸岡 良子	丸田 三恵	向井 通子	森 繁子
森浦 和子	森岡嗣雅子	森本知世子	横関久美子	吉田さい子
吉田佐知子	吉野 美保	若林 節子	和田 悦代	和田富美子
生野 久美	今治 宏美	居和城幸代	岩崎 麻美	遠藤玻都恵
大井 多栄	大石 正	岡崎 啓子	小野 幸久	檉山 正代
川下小夜子	川端喜美子	木田 史子	金城 泰子	栗林 和江
栗山 弘子	幸田 康代	児玉 幸子	小西真理子	坂尾 俊一
佐藤 恵子	高橋美知江	武市 美穂	武田 淳子	高橋 三紀
谷本富美世	玉城 安和	玉城 豪	田村 知恵	富永美知子
富本 勲	長尾由美子	長原 七与	仁木シモエ	野田 満代
坂東 裕美	藤田 佳花	藤本 優子	藤原 一子	

前衛の部

大胡恵里香	長崎 香	井内 梨加	大胡 真美	仁尾 みや
前川わかな	荒川 裕介	福原 淳史	栗尾 奈那	若林 美紀
中野 朱理	大西 英徳	梶川 佳奈	永井 厚子	島尾 明良
中川 富量	義富 博正	川原 裕梨	大久保 怜	大久保可南子
佐藤 浩幸				

デザイン

[審査員]	伊藤 豊嗣						
[特別出品]	坂本三千一	福井 章	田中 一郎				
[招待]	斎藤 繁次	坂野美恵子	敷島のり子				
[無鑑査]	斎藤 剛						
[特選]	山本 真子	(四国放送社長賞)					
[70回記念賞]	四十宮隆志						
[準特選]	山野井宏宗	吉村 敏嗣	板東 未記				
[奨励賞]	三木理紗子	林 敏雄	佐々木奏美				
[入選]	斎藤志津子	埴渕 照二	四十宮隆志 ⁽³⁾	田村 あい	長野 風太		
	新居 穂佳	尾池 孝希	環 民子	佐久間陸斗	田中見那美		
	北野梨夏子	松本 美桜	栗飯原倫佳	榊原 百那	河野 瞬生		
	三木ひより	田中 綾乃	小村 智美	村田佳奈子	乾 佳琳		
	濱 怜爾 ⁽²⁾	高丸 公相					

第 70 回記念徳島県美術展出品・入選等状況

区分 \ 部門		日本画	洋 画	写 真	彫 刻	美術工芸	書 道	デザイン	計
出 品 点 数		41	271	571	25	161	755	55	1,879
出 品 者 数		38	222	225	24	112	452	37	1,110
入 賞 ・ 入 選	特 別 賞	(1)	(1)	(0)	(1)	(1)	(1)	(1)	(6)
	70回記念賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特 選	2	3	3	1	2	8	2	21
	準 特 選	3	6	9	2	4	14	3	41
	奨 励 賞	3	5	8	2	3	13	3	37
	入 選 数	17	143	126	10	84	328	25	733
	計	25	157	146	15	93	363	33	832
	入 選 率	61.0	57.9	25.6	60.0	57.8	48.1	60.0	44.3
選 外	落 選 数	16	114	425	10	68	392	22	1,047
	落 選 率	39.0	42.1	74.4	40.0	42.2	51.9	40.0	55.7
無 審 査 出 品	特別出品	3	1	2	3	3	3	3	18
	招 待	4	3	18	4	6	35	3	73
	無 鑑 査	1	1	1	1	0	4	1	9
	賛助出品	1	2	0	1	2	1	0	7
	遺作出品	0	0	1	0	0	0	0	1
計		9	7	22	9	11	43	7	108
展示数		34	164	169	24	104	406	40	941

※写真部門の特別賞は申し出により辞退

第 70 回記念徳島県美術展公募規定

区分	部門	日本画	洋画	写真	彫刻
搬入日		9月27日(日)	9月26日(土)	10月4日(日)	9月27日(日)
搬入場所		あわぎんホール(県郷土文化会館)3階展示室			
審査日		9月27日(日)	9月27日(日)	10月4日(日)	9月27日(日)
審査員		中島 千波	堀 研	江成 常夫	三沢 厚彦
出品料		協会員1点目 3,500円 その他の方 4,500円 高校生 2,500円 2点目からはすべて 1,500円			
出品制限・大きさ・仕上げ		・未公開作品に限る ・写真部門は1人3点まで、その他の部門は点数に制限なし ・高校生以上とし、小・中学校在学者は出品できない 最小が額縁の幅を除いた両面の縦横の長さが70.0センチメートル以上で、最大が額縁の幅を含めた縦横の長さが190.0センチメートル以内、略半なるパネル等を使用の上、額装とするパネル等の裏面には吊り紐をつけること、パネルや画面が額より出ないこと、ガラス等で画面を覆わないこと(ただし、徳島県美術展日本画出品規定における額装の額とは、作品正面から見て一辺の額幅が1.0センチメートル以上の木材又は金属で作られた外枠をいう) 20号～60号までとするS型は30号までを上限とし、版画は10号以上とする アクリル、ガラス等で画面上を覆わないこと(ただし、水彩画、版画はアクリルに限って認める) 額・吊り紐は必ず付け、保管・展示等に支障がない作品とすること 単写真、組写真とも半切およびA3から全倍サイズ 画面の長辺は40cm以上90cm以内 スクエアサイズ(正方形)は一辺が30cm以上50cm以内 組写真は1パネル(90cm×180cm以内)に全作品を固定 作品は必ずパネル貼りし、額装はしないこと (ガラス、アクリル装肴、金属、プラスチック、木材などによる枠取り不可) 高さ2×幅1.5×奥行1.5以内、重量200g以内 (上記サイズを超える作品は屋外展示とする) 材料等は自由、展示可能な作品に限ります			
入賞		特選 2点 70回記念賞 1点 準特選 3点 奨励賞 3点	特選 3点 70回記念賞 1点 準特選 6点 奨励賞 5点	特選 4点 70回記念賞 1点 準特選 9点 奨励賞 8点	特選 1点 70回記念賞 1点 準特選 2点 奨励賞 2点

区分	部門	美術工芸	書道	デザイン
搬入日		9月27日(日)	10月2日(金)	10月4日(日)
搬入場所		あわぎんホール(県郷土文化会館)3階展示室		
審査日		9月27日(日)	10月3日(土)	10月4日(日)
審査員		山下 義人	鬼頭 壘城・吉川美恵子・小竹 石雲	伊藤 豊嗣
出品料		協会員1点目 3,500円 その他の方 4,500円 高校生 2,500円 2点目からはすべて 1,500円		
出品制限・大きさ・仕上げ		・未公開作品に限る ・写真部門は1人3点まで、その他の部門は点数に制限なし ・高校生以上とし、小・中学校在学者は出品できない ・立体作品は、50cm立方換算以内(たて×よこ×おくゆきが125,000立方cm以内)とする 但し、たて100cm・よこ100cm・おくゆき100cm以内とする ・平面作品は、150cm平方換算以内(たて×よこが22,500平方cm以内)とする 但し、たて180cm・よこ150cm以内とする 木、竹、金工、陶磁、漆、染色、織物、人形、ガラス等とし、展示できる用具を必ずつけることとする 半切又は全紙1/2以上、仕上がり面積1.47㎡(16平方尺)以内で縦・横自由 巻子・帖は40㍺×300㍺以内 篆刻は印影とし、タテ39㍺×ヨコ30㍺以内の額装に限る (例) 61㍺(2尺)×242㍺(8尺) 枠張りに限る 79㍺(2.6尺)×181㍺(6尺) " 91㍺(3尺)×161㍺(5.3尺) " 121㍺(4尺)×121㍺(4尺) " 半切・全紙1/2・連落まで額装アクリル入りでもよい 無鑑査以上の出品者は半切・全紙1/2以内、横幅90㍺以内とする 次の部門に属する作品とする ①漢字(臨書不可)・篆刻(模刻不可) ②仮名(臨書不可) ③近代詩文書 ④前衛(文字を表現したもの) それぞれ釈文をつけることとする B1サイズ(728×1,030㍺)で厚さ5～75㍺、外枠(幅20㍺以内)を含めた重さが5g以内とする グラフィックデザインとし、原画の材質は問わないが、ガラス額装は不可 実在の商品名、会社名等は不可とし、著作権・肖像権に触れないこと 吊り紐をつけることとする		
入賞		特選 2点 70回記念賞 1点 準特選 4点 奨励賞 3点	特選 8点 70回記念賞 1点 準特選 14点 奨励賞 13点	特選 2点 70回記念賞 1点 準特選 3点 奨励賞 3点

注) 各部門、特選の点数は70回記念賞1点を含む。

徳島県美術展審査員一覧

回数	部門	日 本 画	洋 画	写 真	彫 刻 (46回まで彫物)
1		委 員	野 間 仁 根 冢 永 三郎	委 員	
2		大 栗 旌 仸	野 間 仁 根	上 田 備 山	太 坂 田 三 郎 東 文 夫
3		委 員	伊 原 宇三郎	同 上	太 坂 田 三 郎 鹿 内 文 夫 洲 洲
4		委 員	須 田 国太郎	同 上	同 上
5		上 村 松 篁	田 村 孝之介	小 野 由 行	太 坂 田 三 郎 東 文 夫
6		西 山 英 雄	伊 藤 継 郎	川 崎 亀太郎	同 上
7		山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤太郎
8		池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	太 坂 田 三 郎 東 文 夫
9		水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10		管 楯 彦	鈴 木 信太郎 野 間 仁 根	同 上	同 上
11		奥 村 厚 一	井 上 長三郎	岩 宮 武 二	同 上
12		浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13		小 松 均	藤 井 令太郎	同 上	太 坂 東 文 夫 箕 箕
14		秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15		奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16		同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17		松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18		矢 野 鉄 山	池 島 勘治郎	同 上	安 田 周三郎
19		中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初太郎	堀 内 正 和
20		曲 子 光 雄	桂 ムキ子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21		沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22		堂 本 阿岐羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23		松 岡 政 信	山 下 大五郎	同 上	井 上 武 吉
24		山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄
25		奥 村 厚 一	斉 藤 真 成	同 上	原 武 典
26		梶 喜 一	島 村 三七雄	同 上	掛 井 五 郎
27		上 原 卓	高 田 誠	伊 藤 知 己	松 村 外次郎
28		黒 光 茂 樹	中 間 冊 夫	岩 宮 武 二	小 畠 広 志
29		松 岡 政 信	島 田 章 三	同 上	保 田 春 彦
30		黒 光 茂 樹	田 中 岑	岩 宮 武 二	篠 崎 明 雄
31		河 合 健 二	田 中 忠 雄	同 上	江 口 週
32		長谷川 青 澄	山 口 長 男	岩 宮 武 二 伊 藤 知 己	一 色 邦 彦
33		松 岡 政 信	吉 井 忠	岩 宮 武 二 萩 山 庄太郎	柳 原 義 達
34		山 岸 純	小 西 保 文	岩 宮 武 二	清 水 九兵衛
35		樋 笠 数 慶	荻 太 郎	同 上	桜 井 祐 一

美術工芸	書 道	デザイン (37 回まで商業美術)
鬼塚 信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭 山 南 木 ・ 織 田 子 青	
同 上	手 島 右 卿	
鬼塚 信之 新田 信太郎	同 上	
鬼塚 信之	小 坂 奇 石	
明 石 朴 景	辻 本 史 邑	
会 田 裕 宣	織 田 子 青 (漢) ・ 出 口 草 露 (仮)	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒 井 天 鶴 : 後 藤 泰 秀 : 後 藤 田 香 石 田 中 双 鶴 : 田 中 栢 翠	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	荒 井 天 鶴 : 後 藤 泰 秀 : 後 藤 田 香 石 田 中 双 鶴 : 田 中 栢 翠	
大 西 忠 夫	荒 井 天 鶴 : 後 藤 泰 秀 : 後 藤 田 香 石 田 中 双 鶴 : 田 中 栢 翠	
明 石 朴 景	同 上	
平 松 宏 明	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内 田 邦 夫	同 上	
山 脇 洋 二	同 上	
槻 尾 宗 一	同 上	
山 脇 洋 二	荒 井 天 鶴 : 後 藤 泰 秀 : 田 中 栢 翠 田 中 双 鶴	
藤 本 能 道	同 上	
三 井 安 蘇 夫	同 上	金 野 弘
六 角 顕 雄	同 上	大 智 浩
鈴 木 貫 爾	同 上	早 川 良 雄
田 村 耕 一	同 上	原 弘
山 脇 洋 二	荒 井 天 鶴 : 後 藤 泰 秀 : 田 中 双 鶴 田 中 栢 翠	田 中 一 光
浅 野 陽	同 上	奥 野 秀 雄
前 田 泰 次	同 上	灘 本 唯 人
山 脇 洋 二	同 上	大 高 猛
中 村 光 哉	荒 井 天 鶴 : 久 保 幽 香 : 巖 崎 泰 泉 : 田 中 双 鶴 田 中 栢 翠 : 富 永 眉 峰 : 新 厩 藍 州	福 田 繁 雄
山 脇 洋 二	同 上	永 井 一 正

回数	部門	日 本 画	洋 画	写 真	彫 刻 (46回まで彫刻)
36		坂 口 麻沙子	吉 井 淳 二	岩 宮 武 二	土 谷 武
37		下 田 義 寛	野見山 暁 治	同 上	山 本 正 道
38		同 上	須 田 寿	高 田 誠 三	清 水 九兵衛
39		同 上	斉 藤 真 一	同 上	城 田 孝一郎
40		下 保 昭	津 高 和 一	嵯 富 武 三	清 水 良 治
41		橋 田 二 朗	小松崎 邦 雄	奈良原 一 高	淀 井 敏 夫
42		松 本 哲 男	国 領 經 郎	岩 宮 武 二	木 津 一 夫
43		山 岸 純	利根山 光 人	三 木 淳	橋 本 省
44		平 川 敏 夫	赤 穴 宏	高 田 誠 三	山 崎 猛
45		福 井 爽 人	桜 井 寛	三 木 淳	土 谷 武
46		岩 沢 重 夫	大 森 朔 衛	同 上	峯 田 敏 郎
47		穂 田 一 稗	谷 本 重 義	立 木 義 浩	小 島 弘
48		田 淵 俊 夫	大 沼 映 夫	杵 島 隆	建 畠 覚 造
49		中 路 融 人	馬 越 陽 子	同 上	綿 引 道 郎
50		下 田 義 寛	三 栖 右 嗣	奈良原 一 高	古 島 実
51		工 藤 甲 人	中 根 寛	斉 藤 康 一	恩 田 静 子
52		那波多目 功一	松 樹 路 人	細 江 英 公	石 井 厚 生
53		那 須 勝 哉	藤 田 吉 香	高 田 誠 三	香 浦 有 爾
54		内 田 あぐり	奥 谷 博	同 上	小 林 陸一郎
55		松 尾 敏 男	佐々木 豊	大 石 芳 野	日 原 公 大
56		山 崎 隆 夫	大 津 英 敏	同 上	石 黒 鏑 二
57		岩 本 和 夫	山 本 貞	細 江 英 公	原 武 典
58		大 矢 紀	福 島 瑞 穂	江 成 常 夫	菅 原 二 郎
59		竹 内 浩 一	中 山 忠 彦	大 石 芳 野	米 林 雄 一
60		小 嶋 悠 司	絹 谷 幸 二	江 成 常 夫	北 郷 悟
61		宮 廻 正 明	山 本 文 彦	同 上	鈴 木 久 雄
62		能 島 和 明	島 田 鮎 子	英 伸 三	中 垣 克 久
63		雲丹亀 利 彦	桜 井 寛	田 沼 武 能	林 武 史
64		西 田 俊 英	塗 師 祥一郎	同 上	津 田 裕 子
65		岡 村 倫 行	金 山 佳 子	三 好 和 義	建 畠 朔 弥
66		宮 いつき	大 津 英 敏	江 成 常 夫	深 井 隆
67		小 山 硬	笠 井 誠 一	大 石 芳 野	湯 村 光
68		土 屋 禮 一	佐 藤 泰 生	大 石 芳 野	保田井 智 之
69		上 村 淳 之	池 田 清 明	織 作 峰 子	村 井 進 吾
70		中 島 千 波	堀 研	江 成 常 夫	三 沢 厚 彦

美術工芸	書 道	デザイン (37回まで商業美術)
田 村 耕 一	荒 井 天 鶴・田 中 双 鶴・田 中 栢 翠	山 城 隆 一
同 上	同 上	粟 津 潔
山 下 恒 雄	荒 井 天 鶴・田 中 双 鶴・田 中 栢 翠	田 中 一 光
同 上	同 上	長 友 啓 典
浅 野 陽	荒井天鶴・久保幽香・讃岐奈泉・春藤大猷・高原清泉 田中双鶴・田中栢翠・長江清幽・新厩鑑州・西岡楚峰	亀 倉 雄 策
中 村 光 哉	明 石 春 浦・坪 井 正 庵	伊 藤 憲 治
浅 野 陽	桜 井 琴 風・黒 野 清 宇	サイトウ・マコト
山 下 恒 雄	大 岡 皓 崖・山 田 伍 雲・西 野 象 山	佐 藤 晃 一
三 浦 小平二	花 田 峰 堂・小 山 素 洞・東 地 滄 厓	河 北 秀 也
松 永 勲	浅 見 綿 龍・森 本 妙 子・加 藤 大 碩	松 永 真
山 下 恒 雄	近 藤 摂 南・東 山 一 郎・中 野 北 溟	浅 葉 克 己
島 田 文 雄	谷 村 憲 齋・植 村 和 堂・太 田 義 久	勝 井 三 雄
大 西 長 利	安 原 皐 雲・池 田 桂 鳳・金 子 卓 義	五十嵐 威 暢
山 下 恒 雄	鈴 木 桐 華・西 本 支 星・金 子 聰 松	青 葉 益 輝
島 田 文 雄	尾 崎 邑 鵬・井 茂 圭 洞・大 井 錦 亭	松 永 真
中 井 貞 次	栗 原 蘆 水・榎 倉 香 邨・種 谷 扇 舟	安 西 水 丸
栗 木 達 介	甫 田 鷄 川・小 山 やす子・石 飛 博 光	U. G. サトー
宮 田 亮 平	杭 迫 柏 樹・藤 木 正 次・吉 田 成 堂	早 川 良 雄
松 永 勲	津 金 孝 邦・池 田 桂 鳳・松 永 暘 石	戸 田 正 寿
竹 内 順 一	田 中 節 山・村 上 俄 山・黒 田 玄 夏	杉 浦 康 平
栗 木 達 介	宮 崎 葵 充・赤 江 華 城・金 子 卓 義	秋 山 孝
中 井 貞 次	星 弘 道・宮 重 小 蘭・西 野 象 山	遠 藤 享
島 田 文 雄	吉 川 蕉 仙・清 水 透 石・作 田 英 嗣	中 村 誠
竹 内 順 一	岩 井 韻 亨・光 宗 道 子・大 井 錦 亭	小 島 良 平
宮 田 亮 平	伊 藤 天 游・井 茂 圭 洞・田 岡 正 堂	永 井 一 正
島 田 文 雄	稲 垣 崧 圃・横 山 煌 平・船 本 芳 雲	新 島 実
増 村 紀一郎	樽 本 樹 邨・東 山 一 郎・辻 元 大 雲	三 木 健
石 川 充 宏	真 神 巍 堂・前 島 泉 洲・長谷川 牧 風	松 井 桂 三
竹 内 順 一	鈴 木 春 朝・山 本 高 邨・砂 本 杏 花	河 北 秀 也
山 下 了 是	大河内 仙 嶽・師 田 久 子・飯 高 和 子	勝 井 三 雄
大 樋 年 朗	土 井 汲 泉・舟 尾 圭 碩・百 瀬 大 蕪	佐 藤 晃 一
宮 田 亮 平	西 村 自 耕・岩 永 栖 邨・西 野 象 山	新 村 則 人
豊 福 誠	今 村 桂 山・横 山 煌 平・森 本 龍 石	福 島 治
若 山 裕 昭	渡 部 清・田 頭 一 舟・鈴 木 まつ子	秋 山 孝
山 下 義 人	鬼 頭 墨 峻・吉 川 美恵子・小 竹 石 雲	伊 藤 豊 嗣

徳島県美術展開催運営要項

第1条（名称・開催目的）

本展は徳島県美術展「以下（県展）という」と称し、広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

第2条（主催団体）

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

第3条（開催運営の組織）

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」で構成する。運営委員、事務局員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

【県展運営委員会】

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の会長、副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から2名の合計20名でこれを構成する。運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

1. 開催運営の基本事項について審議決定すること。
2. 審査員の推薦決定に関すること。
3. 審査方法、表彰に関すること。
4. 収支予算、決算の承認に関すること。
5. その他県展開催に必要なこと。

【県展事務局】

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社企画事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社3名の計4名で構成する。事務局の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

1. 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
2. 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
3. 審査員候補の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等に関すること。
4. 収支予算案の作成に関すること。
5. 開会式、表彰式の準備に関すること。
6. 広報PRに関すること。
7. その他県展開催の下準備に関すること。

第4条（出品部門）

県展の出品部門は、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

第5条（展示作品）

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

1. 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。

2. 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

- (1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

- (1) 特選を連続3回得たもの。
- (2) 年間を問わず特選を4回得たもの。
- (3) 年間を問わず特選及び準特選を6回得たもの。（特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする）
- (4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

- (1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会長、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。
- (2) 各部の会長を永年勤めて実績があり運営委員会の議を得たもの。

（注）① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

- ② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

第6条（審査員）

審査員は県外審査員とする。審査員の選任は県美術家協会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い、運営委員会の議を経て決定する。

第7条（審査）

審査は公開により行う。

第8条（入選、入賞数）

1. 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

区 分	特 選	特別賞（特選の中から１点）	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画	2	徳 島 県 知 事 賞	3	3 以内	規定数
洋 画	3	徳 島 県 議 会 議 長 賞	6	5 "	"
写 真	4	徳島県教育委員会教育長賞	9	8 "	"
彫 刻	1	徳 島 市 長 賞	2	2 "	"
美術工芸	2	徳 島 新 聞 社 長 賞	4	3 "	"
書 道	8	四 国 放 送 社 長 賞	14	13 "	"
デザイン	2	徳 島 県 美 術 家 協 会 長 賞	3	3 "	"

※特別賞は各部門の中から最優秀作品１点に対し贈られるものです。

賞はいずれも同格で毎年部門により一つずつ変更し賞を贈ります。

2. 入賞は１部門１人１賞とする。

第 9 条 （表 彰）

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

1. 特 選……賞状、賞金
2. 準特選……賞状、賞金
3. 奨励賞……賞状、記念品
4. 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

1. 徳島県知事賞 1 名
2. 徳島県議会議長賞 1 名
3. 徳島県教育委員会教育長賞 1 名
4. 徳島市長賞 1 名
5. 徳島新聞社長賞 1 名
6. 四国放送社長賞 1 名
7. 徳島県美術家協会会長賞 1 名

◎特別賞の選考方法については別に定めるものとする。

第 10 条 （収支予算）

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

1. 出品料
2. 入場料
3. 図録売り上げ代金及び広告料
4. 各種補助金

5. その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い、必ず証票をとり、毎年 12 月に決算を行い、運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第 11 条（出品料・協賛費）

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

1. 県美術家協会会員の出品料は、1 点目 3,500 円、2 点目から 1 点につき 1,500 円とする。
2. 一般の方の出品料は、1 点目 4,500 円、2 点目から 1 点につき 1,500 円とする。
3. 高校生の出品料は、1 点目 2,500 円、2 点目から 1 点につき 1,500 円とする。
4. 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は 1 点 3,500 円とする。

第 12 条（入場料）

県展の入場料は次の通りとする。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 一般・大学生 | 前売り 600 円 | 当日 800 円 |
| 2. 高 校 生 | | 当日 300 円 |

第 13 条（附 則）

本要項の規定は昭和 61 年 9 月から実施する。

本要項の改訂、修正は運営委員の 3 分の 2 以上の議決を経てこれを行うものとする。

平成 4 年 2 月 22 日	一部改正
平成 4 年 5 月 16 日	一部改正
平成 8 年 5 月 25 日	一部改正
平成 11 年 5 月 14 日	一部改正
平成 13 年 5 月 30 日	一部改正
平成 14 年 9 月 25 日	一部改正
平成 17 年 6 月 14 日	一部改正
平成 18 年 4 月 11 日	一部改正
平成 23 年 2 月 20 日	一部改正
平成 24 年 2 月 24 日	一部改正
平成 25 年 8 月 20 日	一部改正
平成 26 年 8 月 6 日	一部改正

第 11 回徳島県こども美術展出品・入選等状況

会 期 10月16日(金)～10月20日(火)

会 場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

入場者数 大人 2,397人 こども 1,233人 計 3,630人

出品・入選等状況

【絵画部門】

種 別		一 般 展 出 品							特 別 企 画 展 出 品					
学 年		作品総数	特選 (特別賞を含む)	準特選	優秀賞	入選	入賞入選合計	入選率 (%)	作品総数	特別賞	優秀賞	入選	入賞入選合計	入選率 (%)
小学生	1年	560	2	2	42	50	96	17.14	23	1	3	4	8	34.78
	2年	581	2	2	43	52	99	17.04	27	1	3	4	8	29.63
	3年	568	2	2	42	51	97	17.08	24	1	3	4	8	33.33
	4年	436	2	2	33	39	76	17.43	27	1	3	4	8	29.63
	5年	417	2	2	31	37	72	17.27	31	1	3	5	9	29.03
	6年	360	2	2	27	32	63	17.50	27	1	3	4	8	29.63
中学生	1年	258	2	2	19	23	46	17.83	22	1	3	4	8	36.36
	2年	273	2	2	20	24	48	17.58	32	1	3	5	9	28.13
	3年	217	2	2	16	19	39	17.97	37	1	3	6	10	27.03
計		3,670	18	18	273	327	636	17.33	250	9	27	40	76	30.40

【書写部門】

種 別		一 般 展 出 品							特 別 企 画 展 出 品					
学 年		作品総数	特選 (特別賞を含む)	準特選	優秀賞	入選	入賞入選合計	入選率 (%)	作品総数	特別賞	優秀賞	入選	入賞入選合計	入選率 (%)
小学生	1年	406	2	2	15	37	56	13.79	367	1	9	17	27	7.36
	2年	608	2	2	23	56	83	13.65	495	1	12	23	36	7.27
	3年	931	2	2	35	87	126	13.53	729	1	18	34	53	7.27
	4年	774	2	2	29	72	105	13.57	905	1	22	42	65	7.18
	5年	827	2	2	31	77	112	13.54	823	1	20	39	60	7.29
	6年	760	2	2	28	71	103	13.55	706	1	17	32	50	7.08
中学生	1年	265	2	2	10	24	38	14.34	171	1	4	8	13	7.60
	2年	251	2	2	10	23	37	14.74	167	1	4	8	13	7.78
	3年	239	2	2	9	22	35	14.64	162	1	4	8	13	8.02
計		5,061	18	18	190	469	695	13.73	4,525	9	110	211	330	7.29

※県南巡回展(阿南市) 11月22日(日) 23日(月・祝)

入場者数 649人

※県西巡回展(美馬市) 11月28日(土) 29日(日)

入場者数 776人

各部記録

日 本 画 部

部 会 長 岡 英彦

年間展望

◎第 23 回放美展（5月2日～5月6日 あわぎんホール）

応募点数は 30 点で、その中から入選 21 点、さらに入賞 5 点に絞り込んだ。作品のレベルは年々向上しており、今回も難しい審査だった。全体的にエネルギーにあふれた好感が持てる作品が多く、惜しくも選に漏れた作品の中にも、作者の主張を感じさせるものが多かった。よりいっそう魅力的な作品を次回展に期待したい。

審査員（岡英彦・中西芳雄・日浦猛史）

放美賞	「綿の花」	富永 博子
優秀賞	「あした」	西岡 ちほ
	「大蛇」	柴村友加梨
四国大学賞	「水鳥の空」	亀井 純子
梅岡トヨ賞	「碧く」	阿部梨々花

◎第 56 回新作日本画展（6月25日～28日 阿波銀プラザ）

平成 13 年から休止していたが、今年 14 年ぶりに再開した。この展覧会は徳島県内及び徳島県に關係のある日本画作家のだれでもが気軽に参加でき、発表の場となる開かれた展覧会で、86 点の出品があった。意欲あふれる魅力的な作品が多数出品され、多くの鑑賞者でにぎわった。

新作大賞	「農大・夜桜」	中川 敬
新 作 賞	「立葵」	中川富美子
	「風がつれていく」	富本 七絵
	「華」	宮越 千佳
佳 作	「季果」	宮本 恵子
	「精」	久保 守近
	「海・閑日」	澤 真弓
	「華やかな夏の宴」	安瀨 弘佑
	「夜」	梶浦 千瑞

◎第 70 回徳島県美術展（10月9日～14日 あわぎんホール）

今回の審査は、日本美術家連盟常任理事の中島千波先生にお願いした。応募点数は 41 点で、その中から特別賞（県美術家協会会長賞）1、70 回記念大賞 1、準特選 3、奨励賞 3 を含む入選 25 点を選んだ。中島先生には厳正に審査していただいた後、講評をしていただき、岩絵具、筆、

ニカワ、箔などのさまざまな表現技法や扱いについてユーモアを交えながら話していただいた。

また、特選、準特選などの作品に関する講評は次のようなものであった。

県美術家協会会長賞の反田卓「鳴門」は、上から見た鳴門の渦をダイナミックに描き、徳島の土地柄をしっかり表現した。70 回記念大賞の大塚さや香「SAI」は、群れたサイは、それぞれ違う方を向き、重々しい動物とかわいい小鳥をよくまとめ、造形的にもしっかりしている。準特選の久保守近「海霧」は岩肌の細かな様子までよく表現されている。森崎雅子「白日」は雰囲気を出すのがとてもうまく、自分のテリトリーの中で安心して描いているのが伝わってくる。有井和子「群れ」は一見、重すぎるかなという印象を受けたが、それぞれの魚はとてもうまく表現されている。

出品作品はどれも特徴や面白みがあり、全体的に悪くないレベルだ。しっかりしたデッサン力を磨き、自分の生活感や土地柄を捉えて自分にしか描けないもの表現してほしい。

特選	「鳴門」	反田 卓
(県美術家協会会長賞)		
特選	「SAI」	大塚さや香
(70 回記念賞)		
準特選	「海霧」	久保 守近
準特選	「白日」	森崎 雅子
準特選	「群れ」	有井 和子
奨励賞	「兆し」	宮超 千佳
奨励賞	「新緑」	森本 秀代
奨励賞	「漁村」	澤 真弓

会員消息 (県展・放美展・新作日本画展関係は除く。月別。)

1 月	読売・KRU チャリティー美術展	山口放送本社	土方るみ子
	反田卓日本画展	キョーエイ鳴門駅前店 4 階	反田卓
	山川公民館サロン展	山川公民館	藤井吉信
2 月	第 43 回徳島市芸術祭美術展	シビックセンターギャラリー	
		土方喜美子 (特別出品)・鈴木恵子 (招待)	
3 月	読売・KRU チャリティー美術展	読売新聞西部本社	土方るみ子
	第 71 回関西水彩画展	大阪市立美術館	中川敬
	第 23 回空谷記念田野全国水墨画展	高知県田野町ふれあいセンター	久保守近
4 月	第 50 回日春展	東京・松屋銀座	
		岡英彦・土方るみ子・岩脇恵子・平野真里・橋本正弘 (会員)	
	第 55 回日本南画院展	大阪市立美術館	長谷壽 (同人)・藤井瑞雲 (同人)
5 月	第 54 回阿南市春季美術展	阿南市文化会館	長谷壽・植田忠生

	燎 4 人展	阿波銀プラザ	中川敬
	第 6 回徳島女流美術展	あわぎんホール	
	土井洋子・土方るみ子・柳田一子・秋元よし子・斎藤久代・土方喜美子		
	第 51 溪生社水墨画展	あわぎんホール	久保守近
6 月	久保守近水墨画展	ギャラリー M & M	久保守近
7 月	2015 京都日本画画家協会第 3 期展	京都文化博物館	土方るみ子
8 月	第 20 回総合水墨画展	東京・国立新美術館	久保守近
	山川公民館サロン展	山川地域総合センター	藤井吉信
9 月	第 73 回日本画有秋会展	大阪市立美術館	長谷壽・藤井瑞雲
10 月	朱泥会展（前期）	たおかギャラリー	長尾弘子主宰朱泥会員 10 名
	改組新第 2 回日展	東京・国立新美術館	橋本正弘（準会員・審査員）
11 月	第 11 回吉野川市文化祭	川島町体育館	藤井吉信
	第 44 回阿南市文化祭美術展	阿南市文化会館	長谷壽・植田忠生
	平成 27 年福井町文化祭	福井町総合センター	長谷壽
	第 18 回溪生社水墨画小品展	阿波銀プラザ	久保守近
	第 24 回空谷記念田野全国水墨画展	高知県田野町ふれあいセンター	久保守近
	第 46 回津田美術展	徳島市新浜交流センター	西野和男
12 月	朱泥会展（後期）	たおかギャラリー	
		長尾弘子主宰朱泥会員（前期以外の会員 10 名）	
	第 44 回歳末チャリティー作品・色紙即売展	そごう徳島店 6 階	長尾弘子・岡英彦・橋本正弘
	山川公民館サロン展	山川地域総合センター	藤井吉信

洋 画 部

部 会 長 榊 田 務

年間展望

◎第 23 回放美展 会期・5 月 2 日（土）～5 月 6 日（水・振替休日） 会場・あわぎんホール
洋画部門の応募者は 142 人、点数は 156 点で、内、高校生の応募は 30 点を数えた。

入選（入賞を含む）は 86 点、入選率は 55 パーセントであった。

審査は、長尾弘久、露口敏幸、田中シゲミの三氏が当たった。

放美賞の谷慎也さん「鋼船ヲ造ル」は、造船中の船体を真正面に捉える大胆な画面構成が成功している。オイルパステルの色調も効果を發揮している。

優秀賞の小笠正明さん「たからもの」は、題材の捉え方と明るく伸びやかなタッチの生きた作品。同じく優秀賞の岩井春美さん「老蝶」は、一部にパビエコレの技法を用いムーブメントとリズム感のある作品。同じく優秀賞の高木宏さん「三代が渡る初日のかずら橋」は、原色を巧みに使って密度の高い作品にまとめた。同じく優秀賞の真鍋たえ子さん「鮭まつり」は、対象に向かう真摯な姿勢と優れた描写力が魅力。同じく優秀賞の山口明美さん「街の景」は、ショウウィンドウを中心に身近な光景をしっかりと筆致で造形化した。同じく優秀賞の丹生輝子さんの「刻」は、廃物をモチーフにしてうまく絵画化し、色彩に新鮮味がある。同じく優秀賞の吉岡厚子さん「朝の洗濯場」は、郷愁をそそる題材で素直な表現に好感がもてる。

本年、新たに設けられた四国大学賞には兼西愛さんの「みる」が選ばれた。新しい視点からの捉え方が良い。梅岡賞の鈴江陽一郎さん「古代魚Ⅱ」は、高校生らしい清新さが感じられ将来が楽しみ。など高い評価を得た。

選外作品も遜色のない好作品で、限りある壁面のため展示されなかったのは、不運としか言いようがない。更に精進されて応募されるようお願いしたい。

◎第 29 回洋画部会員展 会期・7 月 2 日（木）～7 月 5 日（日） 会場・あわぎんホール
会員の出品数 75 点、それぞれ力作ぞろいで見ごたえのある展覧会になった。

会員の高齢化に伴い出品者も年々少なくなり、会場をこれまでの大展示場から、A 展示場に移した。むしろ、まとまりがあって、見やすいという感想も聞かれた。今後も相互の研究、交流の場として、県民の方々から愛好される展覧会になるよう会員の皆様のご協力を切にお願いしたい。

なお、洋画部会員展運営委員と事務局は次のとおりである。

中 央：伊勢浩章、黒崎志郎、嵯峨潤三、玉田秀子、露口敏幸、長尾弘久、南城ミツ子、
西川周三、平木美鶴、榊田 務
北 部：越久高照、河野公子、田中シゲミ
南 部：佐藤敬子、中辻奈美枝、福良哲子
西 部：近藤克子、鈴木敬子、松川 寛

◎第 70 回県美術展 会期・10 月 9 日（金）～10 月 14 日（水） 会場・あわぎんホール

洋画部門の応募作品総数は 271 点。応募者は 222 人だった。昨年に比して 4 人の増。

入賞・入選は特選 3、準特選 6、奨励賞 5 点に入選 143 点、計 157 点が選ばれた。

会期がⅡ期からⅢ期になり、洋画の展示は従来の大展示室に加えて A 展示室二室が増えたため、入選点数も 27 点の増、入選率は、昨年の 46 パーセントから 57.9 パーセントになり、厳選が僅かに緩和された。

審査員には、行動美術協会会員、広島市立大学名誉教授の堀研氏をお迎えした。午前 9 時 30 分から午後 3 時まで丹念に審査に当たって頂いた。特に受賞作品の決定には何度も賞候補作品に当たられ、慎重に決められた。

審査後のお話では、情熱が感じられる作品が多く、どの作品からも作者の真摯な制作態度が感じられた。特に受賞作品はいずれも個性的で密度が高く、優劣が付けがたかった。

審査に当たっては、技術的にすぐれていることはもちろん、何を描こうとしているかテーマが明瞭であることや独自の表現がなされているかを重視した。と話された。

特選で徳島県知事賞の二條均「静物」は徹底した写実が魅力の静物画。画面構成や色使いなど技術の習熟があらわれていて完成度の高い作品。

特選で 70 回記念賞の高木宏「イリュージョン踊り天国」は、記念賞にふさわしい阿波踊りの活気溢れた楽しい作品で見る人が五感で感じられる作品に仕上がっている。

特選の土橋正子「土壁の納屋」は、達者な描き手であると推察できる。土壁の描写から長い時間の流れが感じられる。質感の表現がすばらしく、更に追求して完成度を高めてほしい。

また制作にあたっては、自分の絵画世界に自信を持って独創的な表現を目指してほしい。感動を画面にあらわすことを意識することが重要だ。とのアドバイスを頂いた。

これからも、関係者の意見をよく聞き、第 71 回展に臨みたい。

会員消息（県展・放美展を除く）

○藍谷 浩平 第 3 回 KEDO 洋画グループ展（阿波銀プラザ）

○青木 幸子 徳島アート 21 第 13 回展、第 3 回 KENDO 洋画グループ展（阿波銀プラザ）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）

○阿部 昌子 第 45 回土曜展（徳島市シビックセンター）

○東 紀美子 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、徳島アート 21 第 13 回展（阿波銀プラザ）、第 54 回阿南市美術展、第 44 回阿南市文化祭（阿南市文化会館）

○天田 弘之 第 47 回モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、第 65 回モダンアート展（都美術館）、第 29 回洋画部会員展、第 47 回石井美術の会作品展（あわぎんホール）

○伊勢 浩章 徳島アート 21 第 13 回展（阿波銀プラザ）、第 29 回洋画部会員展、第 32 回平和美術展、第 71 回青美展（あわぎんホール）

- 乾 繁春 第75回美術文化展：会員出品（東京都美術館）、名古屋巡回展（愛知県美術館）、京都巡回展（京都市美術館）、第25回美術文化徳島支部展、第74回世代美術展、第8回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）
- 伊良原貞子 第75回美術文化展（都美術館）、京都巡回展（京都市立美術館）、名古屋巡回展（愛知県立美術館）、大阪巡回展（大阪市立美術館）、第29回洋画部会員展（あわぎんホール）、第74回世代美術展、第24回美術文化徳島支部展・第8回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）、伊良原貞子絵画展（美馬市寺町ギャラリー）
- 宇高 桂子 第6回徳島女流美術展、第29回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 梅津美砂代 第43回徳島市芸術祭美術展（シビックセンター）、第46回土曜展、第29回洋画部会員展、第6回まほろば夢クラブ作品展（阿波銀プラザ）
- 大西 文代 第32回青彩会美術展（徳島市シビックセンター）
- 大西 道夫 第47回モダンアート徳島支部展（阿波銀プラザ）、第65回モダンアート協会展（都美術館）、同京都展（京都市立美術館）、第29回洋画部会員展（あわぎんホール）、小松島市美術展（小松島市中央公民館）、第35回道草展（喫茶やまなみ）
- 大西利津子 春季徳島二紀展（阿波銀プラザ）、第30周年記念徳島二紀展（あわぎんホール）
- 小笠原秋子 第29回洋画部会員展（あわぎんホール）、三好郡・三好市職員春風展（たばこ資料館）、三好市文化祭（ヨンデンプラザ池田）、三野文化祭（三好市三野体育館）
- 岡田 君代 第33回徳島平和美術展、第29回洋画部会員展、第71回青美展（あわぎんホール）
- 越久 高照 第30回藍美展（藍住町福祉センター）、第43回徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）
- 加川由紀子 第3回 KENDO 洋画グループ展、徳島アート21 第13回展（阿波銀プラザ）、第29回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 片山美代子 第71回記念現代美術協会展（国立新美術館）、第29回洋画部会員展（あわぎんホール）、阿波市吉野川市二市交流展、総合展（吉野川文化研修センター）、阿波市文化祭（阿波市アエルワ）
- 河田 安市 第91回白日会展会員出品、第2回日展入選（国立新美術館）、第29回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 河野 公子 第33回徳島平和展、第29回洋画部会員展、第71回青美展（あわぎんホール）、鳴門市展（キョウエイ鳴門4F ギャラリー）
- 河本多恵子 第3回 KENDO 洋画グループ展、徳島アート21 第13回展（阿波銀プラザ）、第29回洋画部会員展（あわぎんホール）、国府文化祭（国府コミュニティセンター）
- 岸本 花子 第43回徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、第29回洋画部会員展（あわぎんホール）、第38回八紅展（阿波銀プラザ）、第53回全展（東京都美術館）、第18回受賞者選抜展（川口総合文化センター）、全展支部展（網走市エコセンター）
- 木谷 弘 第75回美術文化展（都美術館）、第25回美術文化徳島支部展、第3回 KENDO 洋画グループ展（阿波銀プラザ）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）

- 黒崎 志郎 第 46 回示現会徳島支部展（阿波銀プラザ）、第 103 回日本水彩展（都美術館）、第 68 回示現会展（国立新美術館）、第 68 回示現会展巡回徳島展（あわぎんホール）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、黒崎志郎水彩スケッチ展（ギャラリー喫茶 그레이ス）
- 答島 久子 第 54 回阿南市美術展、第 44 回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 後藤ユリ子 第 29 回洋画部会員展、第 71 回青美展（あわぎんホール）
- 小浜 敏也 阿南市美術展、阿南市文化祭美術展（夢ホール）、徳島アート 21 第 13 回展（阿波銀プラザ）
- 近藤 克子 第 81 回東光展（都美術館）、第 74 回水彩連盟展、改組新第 2 回日展（国立新美術館）、第 36 回東光会徳島支部展、第 44 回絵で見る徳島展、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 74 回世代美術展、第 8 回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）、第 37 回鴨島美術グループ展（吉野川市文化センター）
- 西條 敏夫 西條敏夫水彩画とオイルパステル画展（喫茶シルバリーロード）、西條敏夫オイルパステル画展（阿波市阿波図書館展示コーナー、喫茶花杏）、県立川島中学・高校美術部×OB 展 2015（吉野川市文化研修センター）、洋画部会員展（あわぎんホール）、第 35 回道草展（小松島やまなみ珈琲店）
- 嵯峨 潤三 徳島アート 21 第 13 回展、第 74 回世代美術展（阿波銀プラザ）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 佐々木公子 徳島アート 21 第 13 回展（阿波銀プラザ）、第 1 回つくしの会展（阿南市文化会館）
- 佐藤 敬子 第 29 回洋画部会員展、第 71 回青美展（あわぎんホール）、第 8 回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）
- 佐藤 友美 吉野川市阿波市交流展（市場公民館）、個展 1 ヶ月（花庵杏）、鴨島美術協会展（研修センター鴨島）、吉野川市文化祭（川島体育館）、山川絵画展（山川公民館）、公民館祭（公民館）
- 斉藤 靖子 日本板画院展（東京都美術館）、徳島女流美術展、洋画部会員展、ふるさとを描き遺す会（あわぎんホール）、徳島版画展（阿波銀プラザ）、悠美展（ヨンデンプラザ徳島）、版画とガラス展（萩の家）
- 篠原佳代子 昭和美術会旅の風水彩展（ギャラリーカト京都）、第 40 回、第 41 回全国公募昭和美術会展（京都市美術館）、同奈良巡回展（生駒市芸術会館美楽来）、第 5 回昭和美術会徳島巡回展、第 6 回徳島女流美術展（あわぎんホール）、第 4 回京洛ミニチュア展（ギャラリーきむら京都）、第 23 回篠原佳代子油絵個展（ギャラリー喫茶アンデルセン）
- 志摩 政照 第 91 回白日展（国立新美術館）、吉野川総合美術展、鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 四宮 久子 第 69 回二紀展（国立新美術館）、神戸二紀展（原田の森ギャラリー）
- 島上 二郎 改組第 2 回日展（国立新美術館）、第 81 回東光展（都美術館）、第 37 回東光会徳島支部展（あわぎんホール）

- 下時治郎秀臣 第 91 回白日会展中沢賞、日展（国立新美術館）、巡回展（愛知、長崎、大阪）、白日選抜展（大阪近鉄美術画廊）、秀作美術展（梅田画廊、あわぎんホール）、洋画部会員展（あわぎんホール）、総合美術展（吉野川文化研修センター）
- 白草 由子 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 鈴木 敬子 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 37 回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 杉本 祥子 徳島アート 21 第 13 回展、第 2 回 KENDO 洋画グループ展（阿波銀プラザ）、第 69 回女流画家協会展（東京都美術館）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、いち 2 参し五 6 人展（ギャラリー M&M）
- 住友 政雄 第 47 回画展ふるさと展、第 44 回ふるさとを絵で遺す会（あわぎんホール）、第 37 回鴨島美術グループ展（吉野川文化研修センター）
- 曾我部秀子 第 43 回徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳島市シビックセンター）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 16 回日美絵画展（新国立美術館）、第 31 回八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 武田 洋子 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、三好郡・市教職員春風展（たばこ資料館）、阿波市文化祭（アエルワ）、阿波絵画クラブ展（阿波図書館）
- 竹原 良亮 第 43 回徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、東富田地区秋季文化展（東富田コミュニティセンター）
- 田中シゲミ 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、大麻町文化祭（鳴門市大麻町公民館）
- 田中 康子 国府文化祭（国府コミュニティセンター）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 玉田 秀子 第 43 回徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、徳島アート 21 第 13 回展（阿波銀プラザ）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 1 回つくしの会展（阿南市文化会館）
- 為実美恵子 第 28 回三好文化まつり（ヨンデンプラザ池田ギャラリー）
- 露口 敏幸 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 74 回世代美術展（阿波銀プラザ）
- 手塚てる子 美の起原企画 5 月グループ展（東京銀座美の起原ギャラリー）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、手塚てる子絵画展、徳島版画展（阿波銀プラザ）、洋画グループ 6 人小品展（M&M ギャラリー）
- 中村 恵一 第 29 回日洋展（新国立美術館）、同大阪会場（大阪市立美術館）、第 46 回石井美術の会会員展（あわぎんホール）、中村恵一油彩・デッサン展（ギャラリーカフェ・ブリッサ）
- 二條 均 第 29 回洋画部会員展、第 33 回平和美術展（あわぎんホール）、第 26 回板野美術クラブ展（板野町文化の館）
- 西 富美 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 83 回独立展（国立新美術館）、同大阪展（大阪市立美術館）、第 14 回埼玉独立展（埼玉県立近代美術館）、SCENE 2015 武蔵野美術大学 OB によるグループ展（東京アートホール）
- 西川 敬子 第 71 回関西水彩画展（大阪市立美術館）、第 13 回徳島アート 21 展（阿波銀プラザ）、第 6 回徳島女流美術展、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）

- 西川 周三 徳島アート21 第13回展(阿波銀プラザ)、第29回洋画部会員展(あわぎんホール)
- 西崎 志帆 第38回八紅展、第29回洋画部会員展(あわぎんホール)
- 野上 恵子 第29回洋画部会員展(あわぎんホール)、第38回八紅展(阿波銀プラザ)、
八万文化祭(八万コミュニティセンター)
- 野口 暁子 第38回八紅会(阿波銀プラザ)
- 林 康太郎 第29回洋画部会員展(あわぎんホール)
- 林 静代 第59回神戸二紀展(原田の森ギャラリー)、林静代個展(神戸ギャラリー花六
甲)、第29回洋画部会員展(あわぎんホール)、第17回アトリエ バク・グルー
プ展(櫻ギャラリー)、兵庫二紀新鋭作家展(トアギャラリー)
- 林 信夫 第29回洋画部会員展(あわぎんホール)
- 林 文子 第29回洋画部会員展(あわぎんホール)、第54回阿南市美術展、第44回阿
南市文化祭美術展(阿南市文化会館)
- 平田スミコ 第69回女流画家協会展(都美術館)、第71回青美展(あわぎんホール)
- 日野 邦恵 第81回東光展、第103回日本水彩画会展(都美術館)、第37回東光会徳島支
部展、第29回洋画部会員展、第47回石井美術作品展(あわぎんホール)、第
37回鴨島美術グループ展(吉野川市文化研修センター)、麻植塚アートグループ
展(サンスマイル)
- 平木 美鶴 第69回二紀展にて会員賞(国立新美術館)、第83回日本版画協会展(都美術館)、
個展(高島屋美術画廊大阪・名古屋・横浜、あじさい画廊神戸)、第4回バ
ンコク国際版画ドローイングトリエンナーレ展(バンコク芸術文化センター)、
現代日本版画展(クロアチア、ドブロボニク近代美術館)、第30回記念徳島二
紀展(あわぎんホール)、第13回徳島版画展(阿波銀プラザ)
- 福良 哲子 第43回徳島市芸術祭美術展:招待出品(シビックセンター)、第29回洋画部
会員展(あわぎんホール)、第38回八紅展(阿波銀プラザ)、加茂谷文化祭(加
茂谷公民館)
- 藤井 香世 第2回 KENDO 洋画グループ展(阿波銀プラザ)
- 前川 富子 第75回美術文化展(都美術館)、絵画美学展(阿波銀プラザ)、第47回石井
美術作品展、第29回洋画部会員展(あわぎんホール)、第74回水彩連盟展(国
立美術館)、麻植塚アート(サン・スマイル)
- 前川フキ子 徳島新聞カルチャ展(那賀川図書館)、第29回洋画部会員展(あわぎんホール)、
羽ノ浦公民館フェスタ(羽ノ浦公民館)、第1回つくしの会会員展(阿南文化
会館)
- 榎田 務 第37回東光会徳島支部展、第29回洋画部会員展(あわぎんホール)、第43
回徳島市芸術祭美術展審査(徳島市シビックセンター)、子ども県展審査(徳
島新聞社)、全国愛鳥週間、環境保全等ポスターの審査(徳島合同庁舎)
- 松川 寛 第65回モダンアート展(都美術館)、同巡回展(京都市立美術館、福岡市美術館)
- 真鍋たえ子 第29回洋画部会員展(あわぎんホール)、東富田文化展(東富田コミュニティ
センター)、アイ、ランド福祉展(あわぎんホール)

- 馬淵 尚子 第 91 回白日会展（国立新美術館）、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、
吉野川総合美術展、鴨島美術グループ展（吉野川文化研修センター）
- 三沢 尚子 第 70 回関西水彩画展（大阪市立美術館）、第 7 回徳島女流美術展、第 29 回洋
画部会員展（あわぎんホール）、第 5 回尚アート水彩画展（阿波銀プラザ）
- 三谷多美子 個展（阿波銀行鴨島支店）
- 三谷ミヤ子 第 81 回東光展（東京都美術館）、第 43 回徳島市芸術祭美術展：招待出品（徳
島市シビックセンター）、第 29 回洋画部会員展、県福祉祭（あわぎんホール）、
徳島アート 21 第 13 回展（阿波銀プラザ）、東富田文化展（東富田コミュニティ
センター）、全国福祉祭（山口県美術館）
- 峰 幸子 第 5 回徳島女流美術展、第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 42 回む・
アート展、アトリエ・マイン展（阿波銀プラザ）
- 宮田 京子 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、2015 日独美術交流展出品
- 三好 初子 第 81 回東光展（都美術館）、第 37 回東光会徳島支部展、第 5 回徳島女流美術展、
第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 43 回徳島市芸術祭美術展（シビッ
クセンター）、第 30 回藍美展（藍住町福祉センター）
- 山口 明美 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、佐古文化祭（佐古コミュニティセンター）
- 山口美千代 第 29 回洋画部会員展（あわぎんホール）、池田文化祭（ヨンデンプラザ池田）
- 結城 栄子 第 43 回む・アート展（あわぎんホール）
- 米沢 博 第 43 回徳島市芸術祭美術展（徳島市シビックセンター）、第 21 回徳島県健康
福祉祭美術展（あわぎんホール）
- 和田 寿子 第 43 回市展、第 29 回洋画部会員展、第 44 回絵で見る徳島展、第 47 回画展
ふるさと（あわぎんホール）

写 真 部

部 会 長 上 野 照 文

年間展望

○第 70 回県美術展（10 月 15 日（木）～21 日（水） あわぎんホール）

審査員には九州産業大学名誉教授江成常夫先生をお招きして行われた。

写真は人間の喜びや悲しみ、不条理を視覚化するもので、それが人間の幸福につながらなければならない。そうした視点で選考させてもらった。全体に優れた表現力を持つ作品が多く、上位ほど優劣の差は殆ど無かった。

応募点数は 571 点、出品人数 226 名。この中から特選 4 点。準特選 9 点。奨励賞 8 点。入選 126 点が選出されました。

特選	「ざわめく夏」	野藤みきよ（70 回記念賞）
	「馬屋」	佐野 和史
	「昔日」	平野 史子
準特選	石川 徹雄・平澤 澄子・山田 卓・常陸 章・篠原 治雄	
	富岡佳代子・武知 雅・宮前 稔・大栗 隆夫	

○第 23 回放美展（5 月 2 日（土）～6 日（水） あわぎんホール）

近年、組み写真が増えてきている。単写真で表現できない事を 2 枚 3 枚と組むことによってより表現が広がっている。放美賞の高橋一恵さんの「勤続 00 年!？」は、横断歩道の脇にポリス人形。後ろの道路をパトカーが通過して、シュールな印象を与えています。空のトーンと相まって不思議な空間を表現しています。優秀賞の岡本早苗さん「お遍路」は、祈りを捧げるお遍路の胸元にロウソクの炎をぼかし、思い切ったフレーミングで印象的に仕上げています。有馬正司さん「Cat Island」は、魚をくわえた猫の表情や人とくつろぐ様子、足跡の残るセメントの上を歩く猫など、猫のいる風景を写した 3 枚組写真で、ローカル色豊か。四国大学賞の井上栞さん「JUNP!」は、女性が飛び跳ねる瞬間をローアングルでとらえた。シャッターチャンスを見逃さず、若者らしい思い切った表現が素晴らしい。梅岡トヨ賞は三木真理子さん「祭りの日」由岐の祭りを 3 枚組でみずみずしい感性で切り取り、高校生らしい明るい色調が爽やか。

祭りなどの行事を写した作品が多いが、とらされている印象のものも見られる。自分の感性を大事にとることを心がけて欲しい。

応募点数は 399 点。昨年より若干減少。放美賞 1 点、優秀賞 16 点、四国大学賞 1 点、梅岡トヨ賞 1 点、入選 143 点を選出した。審査員は上野照文、林敏彦、井藤光章が担当した。

放美賞	「勤続 00 年!？」	高橋 一恵
優秀賞	早瀬 茂・長岡 和美・岸田 義市・福井 純子・熊谷美智子	
	吉田 隆之・遠藤 博敏・阿部 久雄・松崎 真弓・岡本 早苗	
	圓藤由貴子・有馬 正司・大西 啓子・姫野 博司・おどみ岐調	

増田 実
四国大学賞 井上 栞
梅岡トヨ賞 三木万理子

会員訃報 西條 征二（1996 年～ 1997 年の間、写真部会長を務められていました）
三木 晴夫（1974 年～ 2012 年の間、写真部委員を務められました）
大貝 久義・宮崎 敏晴

○県美協写真部撮影会（6 月 21 日（日） 京都市）

今年は、京都東寺の弘法市と重なったので京都市を目的地に行った。バス 1 台 41 名の参加で開催した。阿南 6 時出発、徳島、鳴門経由で 10 時過ぎに東寺（一部降車）、京都駅現地到着。各自が自由に出発時間まで目的地で撮影し有意義な 1 日で有った。下記の各委員にお世話願った。

井上 憲治・林 敏彦・阿部 啓三

会員消息

◎第 49 回日本光画会「光」展（1 月 10 日（土）～ 12 日（月）徳島市シビックセンター 3 F）

出 品 者：佐藤 義雄・榎本 真悟

◎第 30 回全日本写真連盟県本部写真展（2 月 20 日（金）～ 22 日（日）徳島市シビックセンター 3F）

出 品 者：秋田 召旨・秋山 修一・阿部 啓三・井藤 光章・井上 憲治・岩本 宏子
上野 照文・大津 勝治・岡本 早苗・川真田慶治・岸田 義市・佐治 孝
佐藤 義雄・田村 泰弘・西岡まゆみ・野藤 敏美・野藤みきよ・橋本 圭祐
橋本 勝・林 敏彦・板東 泰雄・姫野 博司・福井 邦博・福井 純子
福田 勉・藤川 光昭・古井 謙吉・三木 理司・宮本 幸治・森 賢一
森住 博・山下 助信・吉村 敏嗣

◎日本風景写真協会第 9 回徳島支部展（3 月 10 日（火）～ 15 日（日）NHK 徳島放送局）

出 品 者：岩崎 英昭・板東よしお・吉田 隆之

◎第 45 回ナルトピンぼけクラブ写真展（3 月 21 日（金）～ 23 日（日）キョーエイ鳴門駅前店）

出 品 者：木田 英之・賀川 泰弘・小川 勝・武知 雅

◎第 1 回新光会写真展（4 月 3 日（金）～ 5 日（日）徳島市シビックセンター）

出 品 者：佐藤 義雄・三木 晴夫・三木 理司

◎大学開放実践センター写真講座修了展と仲間たち（4 月 10 日（金）～ 12（日）阿波銀プラザ）

出 品 者：井上 憲治・上野 照文・上野 博子・大津 勝治・大塚 尚・岡本 早苗
岸田 義一・熊谷美智子・斉藤 幹夫・島 祥子・高橋 一恵・滝畠 豊美
西岡まゆみ・板東 泰雄・吉田 隆之

◎第 16 回ニッコールクラブ徳島支部写真展（4 月 17 日（金）～ 19 日（日）徳島市シビックセンター 3 F）

出 品 者：阿部 啓三・秋田 召旨・井藤 光章・川真田慶治・櫛渕 魏・佐藤 義雄
藤川 光昭・古井 謙吉・堀口 幸男・増田 寿・三木 理司・森 光

森 賢一

◎第31回サンカ会写真作品展(4月18日(土)～20日(月)徳島市シビックセンター3F)

出品者:田中 伸廣・森内 昭男

◎佐治 孝写真展(5月1日(金)～13日(水)藍住町ギャラリーカフェサルヴァドール)

◎岩崎 英昭写真展(5月1日(金)～30日(土)勝浦町ガーデンタイムこのむ)

◎第5回フォトクラブ・アイレ写真展(5月15日(金)～17日(日)阿波銀プラザ)

出品者:大西 啓子・熊谷美智子・滝畠 豊美・高橋 一恵・西岡まゆみ

◎第2回木田英之「塾」課題写真展(5月22(金)～24日(日)徳島県立近代美術館ギャラリー)

出品者:木田 英之・林 好一

◎第16回阿波っ子写真展(5月22日(金)～24日(日)シビックセンター3F)

出品者:川口 進

◎2015年阿波踊りポスター 採用宮本幸治作品

◎第15回「UNIT-D」写真展(5月29日(金)～31日(日)徳島市阿波銀プラザ)

出品者:井上 憲治・上野 照文・多川 静守・野口 佳一・橋本 圭祐・林 敏彦
堀口 幸男・増田 寿

◎第38回写真同人「炎」作品展(6月5日(金)～6月7日(日)徳島市シビックセンター3F)

出品者:阿部 啓三・井藤 光章・井上 憲治・岩本 宏子・大津 勝治・川真田慶治
檜淵 魏・佐治 孝・佐藤 義雄・武林 君子・田村 泰弘・伊達 照子
土橋 成行・野口 佳一・林 敏彦・古井 謙吉・堀口 幸男・森 賢一

◎第21回ライカクラブ写真展(6月19日(金)～21日(日)徳島市シビックセンター3F)

出品者:山田 勝二

◎第11回写好館クラブ写真展(6月26日(金)～28日(日)徳島市ヨンデンプラザ)

出品者:岸田 義一・木田 英之・住友 徳・藤本 英子

◎写団きゅうまる写真展(7月1日(水)～12日(日)つるぎ町道の駅ゆうゆう館)

出品者:多川 静守・柳本 正

◎佐藤義雄個展「イギリスを旅して」(7月2日(木)～31日(金)勝浦町このむ)

◎日本光画会徳島支部展(7月3日(金)～5日(日)徳島市シビックセンター3F)

出品者:榎本 真悟・佐藤 義雄

◎吉村敏嗣個展「滝の写真展PartⅡ」(7月3日(金)～20日(月)神山町ギャラリー杣人)

◎第8回二科会徳島支部展(7月10日(金)～14日(火)徳島市シビックセンター3F)

出品者:秋山 修一・幾田 茂仁・石川 徹雄・梅本 貞範・榎本 真悟・織野 明弘
古字 智子・田中 義孝・谷 嘉明・土橋 成行・富岡佳代子・西野 倫子
早淵 茂・姫野 博司・平澤 昭世・平澤 澄子・平野 史子・藤川 光昭
増田 寿・南 敦子・宮前 稔・森内 昭男・森住 博・山口 正明
山下 修司・大和 章人・大和 健司

◎檜淵 魏・上野 照文「ふたりの写真展」(7月17日(金)～21日(火)阿波銀プラザ)

◎山田 卓写真展(7月18日(土)～30日(木)阿波市立図書館ロビー)

◎川真田慶治写真展(8月2日(日)～21日(金)吉野川市花杏豆)

◎石川徹雄写真展「世界を行く」(8月9日(日)～31日(月)徳島市風知草)

◎第 63 回二科展写真部門 (9 月 2 日 (水) ~ 14 日 (月) 東京・国立新美術館)

入 賞 者: 秋山 修一・幾田 茂仁・石川 徹雄・榎本 真悟・谷 嘉明・早瀬 茂
平澤 昭世・平澤 澄子・平野 史子・山口 正明・大和 章人

◎滝島 豊美・高橋 一恵「ねこ写真」(9 月 3 日 (木) ~ 28 日 (月) 図書館前ギャラリー)

◎第 55 回写楽会写真展 (9 月 11 日 (金) ~ 13 日 (日) 徳島市シビックセンター 3 F)

出 品 者: 上野 照文・川真田慶治・岸田 義市・櫛渕 紳哉・櫛渕 魏・滝島 豊美
西岡まゆみ・板東 泰雄・古井 謙吉・山田 卓

◎第 6 回 Gr up po Fo to 23 写真展 (9 月 11 日 (金) ~ 14 日 (月) 阿波銀プラザ)

出 品 者: 上野 照文・上野 博子・大塚 尚・大西 啓子・岸田 義一・熊谷美智子
斉藤 幹夫・滝島 豊美・田中 伸廣・西岡まゆみ・吉田 隆之

◎第 13 回写友「吉野川」写真展 (9 月 15 日 (火) ~ 20 日 (日) 徳島市 NHK 1 階ロビー)

出 品 者: 岩崎 英昭・板東よしお

◎第 99 回東京研展 (6 月 28 日 (土) ~ 7 月 6 日 (日) 東京都美術館)

出 品 者: 佐藤 義雄・谷 嘉明・山口 正明

◎第 10 回写真同人「光」写真展 (9 月 25 日 (金) ~ 27 日 (日) 徳島市シビックセンター)

出 品 者: 遠藤 博敏・田村 泰弘・林 敏彦・林 和彦・姫野 博司・福井 邦博
福井 純子・福田 勉・松浦 孝

◎三好 和義写真展「楽園の原点室生寺と沖縄」(10 月 7 日 (水) ~ 14 日 (水) 徳島市そごう)

◎第 5 回木田英之と合同クラブ展(10 月 8 日(金)~ 11 日(日)徳島県立近代美術館ギャラリー)

出 品 者: 小川 勝・賀川 泰広・岸田 義市・木田 英之・武知 雅・林 好一
藤本 英子

◎木田 英之写真展 (10 月 9 日 (金) ~ 12 日 (月) 徳島市シビックセンター)

◎第 62 回阿波踊り写真コンクール (10 月 17 日 (土) ~ 30 日 (金) 徳島市阿波踊り会館)

入 賞 者: 福井 純子・岡本 早苗・野藤みきよ・柳本 正・阿部 啓三・岩崎 英昭
大津 勝治・喜多 昌弘・野藤 敏美・福井 邦博・森 光

◎第 14 回キャノンフォトクラブ写真展(10 月 29 日(木)~ 11 月 3 日(火)徳島市阿波銀プラザ)

出 品 者: 秋山 修一・野口 道子・橋本 勝・林 好一・矢部 弘子

◎第 2 回写真クラブ八丁目写真展 (10 月 31 日 (土) ~ 11 月 2 日 (月) 徳島市シビックセンター 3 F)

出 品 者: 富岡佳代子・南 敦子・森内 昭男

◎日本リアリズム写真集団支部展 (11 月 27 日 (金) ~ 29 日 (日) 徳島市ヨンデンプラザ)

出 品 者: 木田 英之

◎第 22 回朝日四国写真展 (11 月 15 日 (日) 高松市高松テレサにて審査)

(展示 2016 年 1 月 20 日 (金) ~ 31 日 (日) 徳島市シビックセンター)

入 賞 者: 姫野 博司・板東 泰雄・大津 勝治・野藤みきよ・井上 憲治・福井 純子
宮本 幸治・森 賢一・福田 勉・林 好一・秋山 修一・古井 謙吉
阿部 啓三・岡本 早苗

彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

年間展望

◎第 23 回放美展（平成 27 年 5 月 2 日（土）～6 日（水） あわぎんホール）

今回の入選作品は受賞作を含めて 19 点であった。前回より 8 点増えている。総じて若い人の意欲的な作品が目立った。審査評によると、多様な素材のそれぞれの特性を生かして、人体や風景また抽象的な形など、幅広いモチーフを個性豊かに表現した力作が出品されていたとのことである。

放美賞を受賞した楠口銀平さんの「石だるま」は強い物語性を感じる作品であった。上部には木彫りの胸像を置き、中層には無機質な木を組んだ箱を配し、下部には石を丸くして中層の箱と同じような形の箱に入れて組み合わせた作品だ。技術的なよさと組み合わせた形の不思議さが面白い。若い作者のようで今後の進展に期待したいものだ。

優秀賞に選ばれた大貝貞雄さんの「内なる風景Ⅰ」は、一見すると石彫風だが実はセラミックの作品である。オーソドックスなフォルムと台座・空間のバランスがよく、白い素材とのコントラストがうまく表現されていた。

四国大学賞には三木七海巨さんの「やすらかに硬い猫」が選ばれた。石材を使い、猫の愛くるしい表情を丸太の上で見せるという表現であったが、台座の丸太と猫の関係性についてもう少し煮詰めてほしいとの評であった。

また、梅岡トヨ賞には檜恵理香さんの「午前九時のジャスミンティー」が選ばれた。この作品については、彫刻の大切な要素である量やフォルムのとらえ方がしっかりしている。今後、全身像にも取り組んで人体の美しさに挑戦してほしいとの意見であった。

全体評としては、彫刻の制作の最初は物まねでもいいが、作り続ける中で自分に合った素材やモチーフ、表現方法を見つけてほしいと述べられた。

（今回の審査は、鎌田邦宏、上月佳代、居上真人が務めた）

◎第 70 回県美術展（平成 27 年 10 月 9 日（金）～28 日（水） あわぎんホール）

今回の審査員には武蔵野美術大学特任教授で彫刻家の三沢厚彦先生にお願いした。今年の出品総数は 25 点であった。そのうち入賞・入選作品には 15 点が選ばれた。総数では前回より 5 点増えている。大作や素材の多種による作品が目立ち、彫刻に取り組む作家が増えたことは喜ばしいと言える。

全体的に大作が増えたことで展示場所が少し手狭に感じられたが、作家数の少ない分野ながら見ごたえのある作品が並んだ。入賞・入選作品の 15 点については、どの作品も時間をかけ作り込まれた力量のある作品で、独自の世界を作り出していた。三沢先生には丁寧な審査をしていただき、それぞれの作品について適切な評価をしていただいた。審査後には、出品者を交えて作品についてのトークをしていただき、個々に親切な指導をされたのが好評であった。

審査評としては、「作品のタイトルと実物を見て、作者が何を考え、その思考をどのように作品に表現しているのかを審査の基準とした。彫刻の表現方法は多岐にわたるが、造形ができていても、作品への入り込み方が弱いと、表面的な印象にとどまってしまう。出品作は力作ぞろいだったので、絞り切るのに苦労した。」と述べられた。

特選「県教育長賞」に選ばれた近藤美暁さんの「風をとらえて」には、「可視化できない風の存在を感じる作品。素材に朽ちつつある木を選び、中をくりぬいて空洞化させている。その中を風が通るのはもちろんだが、朽ちた木を使うことで風という気体になろうとしている木の存在をうまく表現している。」との評価をいただいた。近藤さんは68回展にも特選を受賞しており、木彫の分野で独自の表現をして、このところその成果が出ている。作品も大作で、情景の表現が上手である。また、積極的に制作に取り組もうとする姿勢が見られ、今後の活動に期待される。

準特選の横畠寛さんの作品「飛ばない鳥」には、「流木や段ボールなど見過ごしてしまいそうな素材を使って、作者の思いを伝えようとしている。寄せ集めて作るプリコラージュ作品だが、色のトーンが合っており、素材とのやり取りがうまくいっている。流木を鳥に見立てた造形的なセンスもいい。」との評価であった。横畠さんは素材を上手に利用して、その素材の良さを自分なりにアレンジし構成する作家だ。これまで植物や魚など身近なところにある対象物をテーマとして、紙や木で造形している。少し着色したところに素朴な表現が作用して、面白い空間表現ができているのではないかと思える。この方法をさらに追及してほしい。

同じ準特選に選ばれた東光司さんの作品「刻まれた風景」については、「大きな作品ではないが、素材の石が存在感を示している。外側は石を割るなどして崩し、内側にはきれいな世界を作っており、その表現が面白い。のみで彫ったり割ったり磨いたり、石へのアプローチもふんだんに盛り込まれている。」と言われた。東さんはずっと石を使った制作活動が続けている作家だ。今回は彼がこれまで得意としている形態での受賞となった。長年の制作活動で培った技術や思考が生かされ、物語性のある作風に仕上がっていたようだ。

全体の評としては、「彫刻の世界は、さまざまな表現のトレンドがある。それも大事だが、自分自身の問題意識を大切にしてほしい。何に感動し、何に悲しみ、作品にどう表現するのか、思いの強さが作品のリアリティーへとつながる。外側の流行もあるが、自分の内側の世界を大事にしながら制作に取り組んでもらいたい。」と話された。

会員消息（県展・放美展関係は除く。順不同）

居上 真人	3月	休校記念モニュメント設置	鳴門市北灘小学校
	7月	現代彫刻小品展 in 浜田出品及びワークショップ	浜田市世界子ども美術館
	9月	第100回二科展出品	国立新美術館
	10月～11月	第53回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	11月	島根県とみやまアート展出品及びワークショップ講師	島根県大田市とみやま
	11月	第4回あさごアートコンペティション スポンサー賞	兵庫県朝来市
	12月	作品「邪鬼〜がまん」設置	大麻比古神社

井下 俊作	10月～11月	第53回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
大津 文昭	10月～11月	第53回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
河崎 良行	2月	第8回現代日本彫刻作家展	東京都美術館
	3月	河崎良行デッサン展	ギャラリー・グレイス
	4月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	8月	30周年記念徳島二紀展	あわぎんホール
	9月	花とみどり・いのちと心展	国営昭和記念公園
	10月	第69回二紀展	国立新美術館
鎌田 邦宏	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	4月	2015 春季二紀展	東京都美術館
	7月	鎌田邦宏デッサン・彫刻展	徳島銀座グレイス
	7月	現代彫刻小品展 in 浜田	浜田市こども世界美術館
	8月	第4回われらの地平線展（2015）	日本橋三越本店
	8月	30周年記念徳島二紀展	あわぎんホール
	10月	第69回二紀展	国立新美術館
	11月	島根県とみやまアート展出品	島根県大田市とみやま
木村 大志	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	7月	現代彫刻小品展 in 浜田	浜田市こども世界美術館
	8月	30周年記念徳島二紀展	あわぎんホール
	10月	第69回二紀展	国立新美術館
	11月	島根県とみやまアート展出品	島根県大田市とみやま
上月 佳代	2月	第43回徳島市芸術祭美術展	シビックセンター
	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	4月	2015 春季二紀展	東京都美術館
	8月	30周年記念徳島二紀展	あわぎんホール
	10月	第69回二紀展	国立新美術館
近藤 美暁	3月	第12回春季二紀展	都立美術館
	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	8月	30周年記念徳島二紀展	あわぎんホール
	10月	第69回二紀展	国立新美術館

佐藤 隆	10月～11月	第53回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
武田亜希子	2月	第43回徳島市芸術祭美術展特別出品	シビックセンター
	3月	第68回展新人選抜者第12回春季二紀展 2015年新人選抜大賞受賞	都立美術館
	7月～8月	グループ展 August Harmony 展小品展	東京銀座みゆき画廊
	8月	30周年記念徳島二紀展	あわぎんホール
	10月	第69回二紀展	国立新美術館
	12月	グループ展 YEAR-END EXHIBITION OF MINI SCULPTURES	ギャラリーせいほう
	12月	第44回歳末チャリティ作品・色紙即売展	徳島そごう
長岡 強	4月	第45回日彫展 審査員出品	東京都美術館
	11月	改組新第2回日展 会員出品	国立新美術館
濱口 恵	1月	第47回モダンアート展出品	阿波銀プラザ
	2月	第43回徳島市芸術祭美術展	シビックセンター
林 一美	2月	徳島人材センター美術展出品	徳島人材センター
東 光司	1月	第47回モダンアート徳島支部展	阿波銀プラザ
	4月	第65回モダンアート展	東京都美術館
松永 勉	2月	第43回徳島市芸術祭美術展 特別出品	シビックセンター
	2月	ウェルシアガーデン エミナース作品設置	春日部市
	2月	上板町コソハラ発電所「風景のはじまり」設置	上板町
	3月	庄町マンション パークレジデンス蔵本に「萌芽」「光華」設置	徳島市
	7月	幕張ベイタウンに「風景のはじまり」設置	千葉県
	7月	現代彫刻小品展 in 浜田	浜田市世界こども美術館
	9月	第70回行動展 会員出品	国立新美術館
	9月～11月	第4回あさごアートコンペティション 優秀賞	兵庫県朝来市
	9月～11月	第26回UBEビエンナーレ現代日本彫刻展模型展	宇部市
	10月	コンシェルジュアート第11回現代作家タペストリーと彫刻展	東京オリエアートギャラリー
	10月	第70回行動展大阪巡回展	大阪市立美術館
	10月～11月	第53回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	11月	島根県とみやまアート展出品	島根県大田市とみやま
横畠 寛	1月	チャレンジとくしま芸術祭参加	徳島県立近代美術館
	10月	四四（シシ）の会参加（グループ展）	神戸市

美術工芸部

部会長 多智花 佐代子

年間展望

◎第23回放美展 平成27年5月2日(土)～6日(水) あわぎんホール

今回の応募点数は126点、出品者は89人でほぼ昨年と同数であったが、平面作品の減数が著しく、優秀作も立体作品に比較的多くあった。

放美賞の大貝貞雄さん「トルソⅡ」は陶の作品であり、力強いフォルムと土の質感や色調がほどよくマッチし、大きなエネルギーを感じる優作であった。今後も自分のやりたいことを見定めて、手先の器用さに頼らず深く追求する気持ちを持ち続けて、制作に励んでもらいたい。

優秀賞5点の中では、綿密な構想と繊細な表面処理で、作者自身の想いを的確に表現できていた松本宏さんの作品「七稜壺」(陶)と、2年連続での受賞となった東條容子さんのパッチワークキルト作品「覚醒」の2点が、特に印象深く心に残った。

四国大学賞は吉本瑠々音さん、梅岡トヨ賞は阿部菜々子さんのどちらも押し花の作品であった。若い人の押し花作品は、サイズが小さ過ぎることを大変残念に思う。使用する材料に制約があるのかもしれないけれど、何らかの工夫を試みて大きな作品を制作出来たなら、ものの見方や発想がもっと大胆で自由なものとなり、作者の意図するところがより明確に表現できるのではないかと思う。

徳島県内における公募展の美術工芸部門では、陶磁・染織・金属・七宝・木竹かずら・漆・パッチワーク・ガラス・人形・紙等多種にわたる種別の工芸作品を受け付け、一般の方々はもちろんであるが、特に若い人たちの感性豊かな新しい挑戦を、大いに期待しているところである。そのためには教育現場の先生方にも大きな「うつわ」である工芸美術のおもしろさを理解いただき、興味を持つきっかけとなるような機会を、ぜひ作っていただけたらと強く願っている。

出品者各位のもうひとつふんばりした作品を、次回の放美展で見せていただきたい。

(第23回展の審査は森賢一〈木〉、森明治〈陶〉、多智花佐代子〈染織〉が務めました。)

◎第70回県美術展 平成27年10月16日(金)～21日(水) あわぎんホール

今年の応募点数は161点、出品者112人であり、前回展より5点の減少となった。その中で陶磁71点、パッチワークキルト21点、押し花19点、染織13点、以下ガラス、木竹かずら、人形、紙等の作品が多種にわたり出品された。

審査員には、香川県から重要無形文化財保持者(人間国宝)の山下義人先生(漆)をお迎えした。過去には芸術院会員の先生方や徳島県展での審査直後に文化勲章を受章された先生もおられたが、部会長としての私の初仕事で、県展70年目にして初めて人間国宝の先生をお迎えしての審査となり、緊張しながら補佐役を務めさせていただいた。

審査前の山下先生のご提案は、出品受付表はA4判に縮小コピーして持ち易くすること、そして初めの1時間位はじっくりお一人で161点の作品と対峙したいとのお申し出があり、そ

の方法を取らせていただいた。約1時間後に部会長の私が呼ばれ、もう一度一点ずつ丁寧に見て廻った。先生の地元である香川県展では、まだパッチワークの作品は工芸部門に全く認められていないこととか、地域性の違い等を話しながら歩をすすめた。先生が記入されたエンマ帳（審査表）を見ながらの審査であったが、殆ど先生の判断が変わることはなく、賞候補の10点余りにも◎が付けられていた。その後、賞候補作品を一カ所に集めて展示替えをし、それから受賞作品が決定するまでに時間はかからなかった。その結果は以下の通りである。

特選（徳島市長賞）	田村栄一郎「陽想」（陶）
特選（70回記念賞）	原田 明實「追憶」（染色）
準特選	鳥井 明子（パッチワークキルト）、松本 宏（陶） 前野 亮治（織）、松永 卓司（ガラス）
奨励賞	丸居 哲雄（木）、高瀬 裕司（陶）、近藤美佐子（染）

山下先生の審査評を書かせていただくと、徳島市長賞の田村栄一郎「陽想」は、大谷焼では珍しい明るく優しい色彩が印象的であり、金色の線が全体をうまく引き締めながら、華やかさをまとっている。原田明實「追憶」は藍染の濃淡が絶妙なバランスで、高いデザイン力と芸術性を感じさせ、作者の思いを見る人に強く訴えかけてくる作品である。

『今後の創作に向けては、自分の目標を高い次元に引き上げ、美意識を高めてもらいたい。良い作品ばかりに触れ、まず目を肥やすことが最も重要である。自分の表現したいもののレベルを上げれば、自然に高度な技術も必要となり、技術を得る意欲と努力につながるのである。』とのことであった。

お忙しい中を徳島までお出かけいただき、貴重なお話や、ご指導いただいたことに改めて感謝申し上げたい。数年後にでも、レベルアップした私たちの仕事ぶりをもう一度見ていただける機会に恵まれたら・・・と考えるのは、私一人ではないと思う。

毎年高松で開催される伝統工芸展へも、しばらく足を運んでいなかった私であるが、今年1月中旬のある日、山下先生の作品を拝見したくて高松へ出かけた。日本工芸会の漆部門の第一人者としての先生の作品はさすがに見ごたえがあり、鋭い感性と洗練された美意識、またその技に感銘を受けて、帰路についた。

70回展の記念展で特筆すべきことは、会期が3期制となり、美術工芸部門の展示室があわぎんホール3階B展でこれまでより2部屋も広くなったことである。出品点数が減少する中で増床は大きな不安であったが、事前に平面と立体の展示方法や配置を入念に考えたことで、まずまずうまく展示出来たように感じた。出品者の皆さんと委員に、感謝申し上げたい。

会員消息（県展・放美展は除く）

齋藤 和彦	・ハワイ七宝展
	・日本七宝作家協会展
丸居 哲雄	・ゆるい展

7月	ワイロアセンター
7月	東京都美術館
4月	文化の森二十一世紀館

	・現代クラフト展	9月	あわぎんホール
	・エネルギー展	10月	県立近代美術館
	・上板町民文化祭	11月	上板町中央公民館
森 賢一	・第54回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・現代クラフト展	9月	あわぎんホール
	・改組新第2回日展	10月	国立新美術館
	・第53回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松三越
藤井 哲信	・第54回日本クラフト展	1月	東京ミッドタウン・デザインハブ
	・藤井哲信ガラス展	5月	大丸心齋橋店
	・第25回伝統工芸諸工芸部会展	6月	日本橋三越本店
	・'15日本のガラス展	9月	代官山ヒルサイドテラス
	・第58回伝統工芸四国会展（奨励賞）	10月	高松三越
	・第4回そば猪口アート公募展	10月	安曇野市高橋節郎記念美術館
四十宮年代	・第43回徳島市芸術祭美術展（特別出品）	2月	シビックセンター
越 由子	・第54回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・現代クラフト展	9月	あわぎんホール
	・第53回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松三越
松本 宏	・第2回大鵬社友会徳島支部趣味の会展	4月	阿波銀プラザ
	・上板町町制60周年記念文化祭陶芸展	11月	技の館
吉田 眞弓	・第12回きものの街のキルト展	9月	十日町市市民体育館
	・第33回もめんの詩パッチワークキルト展	11月	あわぎんホール
大貝 寿子	・第43回徳島市美術展（招待）	2月	シビックセンター
	・第43回県手工芸展（賛助出品）	11月	あわぎんホール
大貝 貞雄	・第43回徳島市美術展（招待）	2月	シビックセンター
	・第43回県手工芸展（招待）	11月	あわぎんホール
大西 道夫	・第35回道草展	12月	喫茶 やまなみ
田村栄一郎	・長三賞常滑陶芸展	11月	愛知県立美術館
松下 敏之	・松下雄介・松下敏之作陶展	10月	ギャラリーM&M
松下 雄介	・松下雄介・松下敏之作陶展	10月	ギャラリーM&M
天野 和子	・第54回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・第26回情熱の女達からのメッセージ	8月	阿波十郎兵衛屋敷
	・第43回県手工芸展	11月	あわぎんホール
	・第33回もめんの詩パッチワークキルト展	11月	あわぎんホール
	・第53回現代工芸美術家協会四国会展	12月	高松三越
斎藤 康男	・版画とガラスの親子展	7月	萩の庵
野村 裕子	・パッチワークキルトの祭典	11月	阪神梅田本店
平井 恵子	・第54回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・かんじる比良2015	5月	比良森の家

	・第 65 回大津市美術展覧会	10 月	大津市歴史博物館
	・第 47 回滋賀県工芸美術協会展	10 月	滋賀県立近代美術館
	・改組新第 2 回日展	10 月	国立新美術館
横井嘉世恵	・第 43 回徳島市芸術祭美術展	2 月	シビックセンター
	・第 20 回宮本薫グループ押し花と手編み作品展	10 月	阿波銀プラザ
龍木 秀子	・第 54 回日本現代工芸美術展	4 月	東京都美術館
	・改組新第 2 回日展	10 月	国立新美術館
	・第 53 回現代工芸美術家協会四国会展（四国会会長賞）	12 月	高松三越
内藤 久子	・第 54 回日本現代工芸美術展	4 月	東京都美術館
	・第 12 回きものの街のキルト展	9 月	十日町市市民体育館
	・第 43 回県手工芸展	11 月	あわぎんホール
	・第 33 回もめんの詩パッチワークキルト展	11 月	あわぎんホール
近藤佐起江	・押し花アート作品展	3 月	花杏豆（鴨島）
	・第 27 回全国手工芸コンクール in ひょうご（優秀賞）	10 月	兵庫県民会館
鳥井 明子	・第 54 回日本現代工芸美術展	4 月	東京都美術館
西 浩子	・第 6 回徳島女流美術展	5 月	あわぎんホール
福本美智代	・第 54 回日本現代工芸美術展（現代工芸新人賞）	4 月	東京都美術館
	・第 43 回県手工芸展	11 月	あわぎんホール
	・第 33 回もめんの詩パッチワークキルト展	11 月	あわぎんホール
多智花佐代子	・第 54 回日本現代工芸美術展	4 月	東京都美術館
	・改組新第 2 回日展	10 月	国立新美術館
	・第 53 回現代工芸美術家協会四国会展	12 月	高松三越

書 道 部

部 会 長 荒 井 彭 仙

年間展望

◎第 23 回放美展（5 月 2 日（土）～ 6 日（水・振休）あわぎんホール）

応募数 181 点、応募人数 151 名（前回 210 点、153 名）であり、29 点 2 名の減少となった。2 点出品者の減少によるものと思われる。

限られた時間内での搬入から受付・審査・展示までの作業は毎年のことながら業務協力者にとっては激務である。同時に全体の 3 分の 1 を占める高校生の出品においては、制作から搬入引率までの指導にあたられる先生方のご苦勞は計り知れないものがある。

今回は前衛部門が放美賞のスポットを浴びた。努力の産物だという。イメージを追い詰めた書作表現が楽しく、熟練された結果から生まれた斬新さには会場に重みが添えられた。

審査評では「書は楽しみながら続けることが大事。出展を励みにしているうちに実力は備わるもの。今後の修練を期待します。」と締めくくられた。

展示は放美賞 1 点、優秀賞 8 点、四国大学賞 1 点、梅岡トヨ賞 1 点、入選 106 点に審査員 3 点を合わせて 120 点となった。

（梅岡トヨ賞：高校生対象）

（四国大学賞：25才以下の方対象）

審査員：山口華城・富久鳴泉・前川古舟

◎第 70 回県美術展（第 3 期 10 月 23 日（金）～ 28 日（水）あわぎんホール）

今回の応募数は 755 点、応募人数 452 名（前回 805 点、494 名）であり、50 点、42 名の減となった。（漢－ 39、仮士 0、近－ 9、前－ 2）増減を繰り返す中での 2 年連続。しかも幅の大きい減少は痛手となった。

審査員は鬼頭墨峻・吉川美恵子・小竹石雲の三先生であり、例年の審査に加え、70 回記念賞の審査業務においては部門を越えての選出にご理解を頂いた。

今回展の特色として会期構成が 3 期に分けられ、書道部は第 3 期の開催となった。これは県展の抱える諸問題の改善に繋がるか否かの試みでもあった。

記念行事の一つとして、吹田文明氏（版画家）の「徳島からみる日本の美術界」と題しての講演会が開催された。

表彰式当日には出品者対象の懇親会（於 阿波観光ホテル）も開催され、書道部からは 70 名が参加した。

会員の訃報

○H27. 12. 15 洲崎忠峰氏（82） 美協書道部委員・元徳島新聞事業局長

現職時代には事業局長として県展発展・工夫に力量を発揮されました。

病気療養中においても書道を座右の銘として深く親しまれました。

ご冥福をお祈りいたします。

○H27. 12. 22 前川古舟氏（78） 美協書道部常任委員・書人会会長

前衛部門の普及、発展に全力であられました。

美協業務においても労力をいとわず情熱を注いで頂きました。

ご冥福をお祈りいたします。

◎社中展・個展等

○第39回東玄書道会展	阿波銀プラザ	1月30日 ～ 2月1日
○第35回記念書研社展	アミコシビックセンター	2月27日 ～ 3月1日
○第49回清潮書作展	あわぎんホール	3月13日 ～ 15日
○第37回泉心会書作展	近代美術館	3月20日 ～ 22日
○第29回正鋒会書展	あわぎんホール	3月27日 ～ 29日
○第43回光輪社書作展	あわぎんホール	4月10日 ～ 12日
○米寿記念 長谷美峰書作展	アミコシビックセンター	4月28日 ～ 30日
○第9回幽の会書展	アミコシビックセンター	5月15日 ～ 17日
○第60回成蹊書道会展	あわぎんホール	5月22日 ～ 24日
○第12回五果会書道展	県立文学書道館	6月12日 ～ 14日
○第5回虹光会書展	県立文学書道館	6月12日 ～ 14日
○第22回耿の会書作展	あわぎんホール	6月19日 ～ 21日
併催 春藤大耿書作展		
○第3回三塊書展	アミコシビックセンター	6月25日 ～ 28日
○長尾重美・戸出芳泉二人展	福屋盛寿の郷ギャラリー	7月18日 ～ 20日
○第28回長玄書道会展	阿波銀プラザ	7月24日 ～ 26日
○第5回記念翔和会かな書作展	アミコシビックセンター	7月31日 ～ 8月2日
○第4回青藍会書作展	あわぎんホール	8月28日 ～ 30日
○第80回記念書芸院展	あわぎんホール	9月10日 ～ 13日
○第60回記念書協人展	あわぎんホール	9月11日 ～ 13日
○第11回向井京子三世代書展	うだつの町並時代屋ギャラリー	10月25日 ～ 11月15日

○第20回記念尚真書展 尚真女流書7人展	あわぎんホール	11月6日 ～ 8日
○第45回直心会書展	あわぎんホール	11月13日 ～ 15日
○第21回六書会書展	ヨンデンプラザ徳島	11月20日 ～ 22日
○第19回せゝらぎ書展	アミコシビックセンター	11月21日 ～ 23日
○第42回双暢会書展	県立文学書道館	11月27日 ～ 29日
○第45回芳藍書道展	四国大学交流プラザ	11月27日 ～ 29日
○平成27年度高校教員書道展	県立文学書道館	12月4日 ～ 6日
○第36回臨池書展	アミコシビックセンター	12月5日 ～ 6日

会員消息（県展・放美展・社中展は除く）

役員で出品した人・入賞者（平成27年1月から12月）順不同

○第56回太玄会書展（東京都美術館 1/20～24）

日本書道連盟賞 弘田長風

○第51回太玄会役員書展（セントラルミュージアム銀座 5/12～17）

薫 事 春藤大耿

理事・実行委員 中尾勝子・富久鳴泉・南 溪石

理 事 岡島順子・下村清子

審査会員 瀬藤豊子

○第46回正筆会 菁華書作展（東京銀座画廊美術館 1/23～25）

常任総務理事 亀石文苑

総務理事 竹田和代

○第46回現代女流書100人展（日本橋高島屋 1/28～2/2）

荒井彭仙

○第51回創玄展（国立新美術館 3/5～15・東京都美術館 3/10～17）

一科審査員 荒井彭仙・長原皐聖・玉城乾香・浜 佳香

二科審査員 永松春苑・多田清芳・岩本志豪

審査会員 吉田和婉・丸岡香貞・平岡幽琴・岸 緑香・朝三皐如・長原皐月
山口幽径・大西清葩・岡崎啓香・高瀬大峯・佐藤恵和・武田玲香

秀 逸 川端康清・丸田恵風・玉城乾舞

二科賞 玉城乾和

準二科賞 向井乾星・清水香凛・高橋乾桜

- 第 77 回謙慎書道会展（東京都美術館 3/20～28）（池袋サザンシティ文化会館 3/19～27）
 常 任 理 事 米澤東籬
- 第 50 回雪心会展（奈良県文化会館 3/25～29）
 F ク ラ ス 高田青蓮・矢部知子・沖田唐谷・青木東原
- 第 4 回礪友会書展（愛知県立美術館 3/31～4/5）
 会 員 米澤東籬
- 第 69 回日本書芸院展（大阪市立美術館 4/7～12、6/23～6/28）（大阪国際会議場 4/8～12）
- | | |
|---------|---|
| 参 与 | 東 南光・薄田玲泉・能仁華瑤 |
| 評 議 員 | 亀石文苑・伊丹東龍・辻 紅雲 |
| 一科審査会員 | 矢部知子・沖田唐谷・青木東原・河野真流・宮守崇流・上田輝芳
森 光翔・清水桂月・松永翠月・八木藍玉・竹田和代・赤川景舟
井上虹雨・東野秀蕙・福家美鵬 |
| 二科審査会員 | 山本景琴・倉本景雨・横田典子・佐野収華・河野多美・佐川菁流
松本景芳・背川景玲・井上景玄・竹内虹舟・阿部博子・鳩成青嶂
日下真宏・谷 玲琴・浅川蘭舟・戸出芳泉・加村喜美子 |
| 史 邑 賞 | 福家美鵬 |
| 大 賞 | 佐野収華・川村春琴・倉本景雨・松本景芳・加村喜美子 |
| 特 別 賞 | 林 美雪・安友彰子・丸岡春暁・中西瑤汀・向井境子 |
| 準 特 別 賞 | 高橋芳琴・廣瀬慈花・野上香泉・寺尾俊通 |
| 特 選 | 岡部比登美・佐々京子・一宮堆川・大下江波・折野幸峰・中川恵風 |
| 二科会員推薦賞 | 高柳早秀・田中紫苑 |
- 第 39 回由源全国書道展（大阪市立美術館 5/26～5/31）
- | | |
|-----------|-----------|
| 常 任 無 鑑 査 | 川村春琴 |
| 常 任 委 員 | 谷 玲琴・丸岡春暁 |
| 委 員 | 土井和翔 |
| 豊 中 市 長 賞 | 中村春岳 |
- 第 43 回日本の書展（大阪国際会議場 5/28～31）
- | | |
|-------|--|
| 招 待 | 東 南光・能仁華瑤・清水桂月・薄田玲泉・河野真流・上田輝芳
宮守崇流・川村春琴・井上虹雨 |
| 秀 抜 選 | 武市鳴雲・赤川景舟・倉本景雨・森 光翔・山本景琴・佐川菁流
井上景玄・背川景玲・松本景芳・福家美鵬 |
- 第 33 回日本詩文書作家協会展 俳句と書の世界（セントラルミュージアム銀座 6/9～14）
 評 議 員 荒井彭仙
- 第 67 回朝陽書道会展（岡山県天神山文化プラザ 6/26～28）

副 理 事 長 薄田玲泉

常 任 総 務 河野真流・上田輝芳・井上虹雨・宮守崇流

常 任 理 事 赤川景舟・倉本景雨・佐川菁流・竹内虹舟・森 光翔・山本景琴
井上景玄・背川景玲・松本景芳

○第 55 回墨滴会全国書道展（大阪市立美術館 6/30 ～ 7/5）

理 事 戸出芳泉

○第 53 回水穂書展（京都市美術館 7/3 ～ 5）

総 務 向井京子

理 事 森崎玉鈴・須見智香

○第 29 回玄心書道展（兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー 7/2 ～ 7/5）

参 与 浅川蘭舟

常任総務理事 辻 紅雲・東野秀蕙

総 務 理 事 福家美鵬

○第 67 回毎日展（国立新美術館 7/8 ～ 8/2）（愛媛県立美術館 8/12 ～ 16）

審 査 会 員 荒井彭仙・玉城乾香

会 員 長原皐聖・永松春苑・浜 佳香・多田清芳・岩本志豪・吉田和婉
平岡幽琴・長原皐月

秀 作 坂尾竟成・丸田恵風

佳 作 玉城乾舞

○聲氣相通—臺北甲子書會・神戸詠歸會聯合書法展（台北市内国軍文芸活動センター画廊
7/26 ～ 30）（神戸市原田の森ギャラリー 8/4 ～ 8/9）

泉心会理事長 三浦富美代

泉心会理事 中田須美子

○第 1 回浪華女流書展（東京銀座鳩居堂 8/18 ～ 23）

川村春琴

○第 32 回読売書法展（国立新美術館 8/21 ～ 30）（サンメッセ香川 10/23 ～ 25）

参 与 清水桂月

理 事 東 南光・能仁華瑤・薄田玲泉・河野真流・上田輝芳・亀石文苑
宮守崇流・辻 紅雲・林 美雪・東野秀蕙・駒田水洗・川村春琴
米澤東籬・井上虹雨・河野多美

幹 事 倉本景雨・竹内虹舟・佐川菁流・山本景琴・井上景玄・背川景玲
松永翠月・佐野収華・竹田和代・青木東原・福家美鵬・森 光翔
松本景芳

評 議 員 加村喜美子・内田麻紀・赤川景舟・高柳早秀・阿部博子・杉本裕子

浅川蘭舟・高橋芳琴・廣瀬蕙花・須見智香

読売俊英賞 井上景玄

読売奨励賞 赤川景舟

特選 楠瀬彩流・向井境子

秀逸 弘田長風・八木藍玉・丸岡春暁

○第31回国際蘭亭筆会展（中国鎮江博物館）

国際蘭亭筆会副会長 東 南光

○改組新第2回日展（国立新美術館 10/30～12/6）

入選 亀石文苑・米澤東籬・中尾勝子・井上虹雨・井上景玄・松本景芳
玉城乾香

○第55回璞社展（大阪市立美術館 12/1～6）

顧問 春藤大耿・清水桂月

参事 東 南光

参与 駒田水洗・武市鳴雲・豊浦春光・谷口清水・花本清香・春藤玉秀
馬居李帆

常任理事 能仁華瑤・八木藍玉・松永翠月・横田典子・林 美雪・河野多美
鈴木惠理

理事 田上洋香・野口有香・弘田長風・伊藤景風・大本華越・岡部比登美
佐野収華・須見智香・恵美春陽・高柳早秀

評議員 上田美智・谷本真由美・井上加芳・稲井華風・磯川味佳・服部紫光
伊達静蘭・中西瑤汀

特別賞 一宮堆川・島 祥瑤・高橋信華

特選 田中紫苑・寺田美穂・板東一男・坪井恵利佳

○第67回正筆展（兵庫県立美術館 原田の森ギャラリー 12/12～13）

常任総務理事 亀石文苑

常任理事 加村喜美子・内田麻紀・齋藤弥生・高木美賀子

○第37回日本書道学院展（東京都美術館 12/13～20）

審査員 赤川景舟・井上景玄・井上虹雨・上田輝芳・皆谷芳穂・河野真流
倉本景雨・佐川菁流・薄田玲泉・住友春陽・背川景玲・竹内虹舟
宮守崇流・森 光翔・山本景琴・高橋芳琴・廣瀬蕙花

※各社中からの報告を受けて掲載しています。

個人（県内社中に無所属）の方で報告がある場合は掲載内容を12月末に部会長まで御寄稿下さい

（書道部）

デザイン部

部会長 田 中 一 郎

年間展望

◎第 23 回放美展（5 月 2 日（土）～ 6 日（水）あわぎんホール）

出品点数 124 点、出品人数 121 人。内、高校・大学生が 115 点、114 人。昨年とほぼ同数の出品があった。

審査には、美協デザイン部より吉本 賢、坂野美恵子、四十宮隆志の 3 名があたった。放美賞には、田村あい（部会員）「サバンナに憧れて」が選ばれた。擬人化された馬というユニークな絵柄とさわやかな色使い、そして、各所に仕掛けられた洒落のきいた遊び心が評価された。優秀賞には、山野井宏宗（部会員）「Reversi」のシンプルな画面構成ながら創造力をかきたてる点が、島田千聖「ノアの箱」は、すぐれた彩色技術によるアメージングでファンタスティックなシーンの演出が、三木ひより「Am I Beautiful ?」は、社会性の感じられる表現で説得力のある点が、杉本 早「LIFE」は、トリックアートの表現で人生を暗示している点が、山本真子「Welcome to My Dream」は、緻密な絵柄で独特の夢の世界が表現されている点がそれぞれ評価された。新設の四国大学賞には須崎上総「カエルびよこびよこ」が、だまし絵の手法により命の循環を表現した面白さが、また、梅岡トヨ賞には、栗飯原早希「森ガール」の動物たちのほほえましいイラストの中に社会的なメッセージも取り入れた点がそれぞれ評価された。39%という相変わらずの入選率の低さではあるが、新人の登竜門としてすっかり定着した感のある熱気のこもった放美展となった。併せて入選 40 点、無鑑査 1 点、審査員 3 点の計 52 点が展示された。

◎第 70 回記念徳島県美術展（第 2 期 10 月 16 日（金）～ 21 日（水）あわぎんホール）

出品人数 37 人、出品点数 55 点。県美術展は 70 回という記念すべき年を迎えたが、デザイン部門の出品点数の減少に歯止めがかからない昨今である。

審査員には、日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）会員で、名古屋造形大学および大学院教授の伊藤豊嗣氏をお迎えし、特選 2 点、準特選 3 点、奨励賞 3 点、入選 25 点の計 33 点を選出していただいた。

特選（四国放送社長賞）には、山本真子「Wonderful world」が選ばれた。「丹念に描きこまれた奇妙な表情のお面や細やかな模様がユニークな世界を作り上げ、見たものが不思議と引き込まれ純粋に楽しめる作品」と評価された。特選（70 回記念賞）の四十宮隆志（部会員）「FACE ~message~」は「傷んだ木肌を病んだ顔に見立て環境破壊に疑問を投げかけている。逆さの文字は悪化する自然環境の裏の顔を暗示しており、強いメッセージ性が的確に伝わってくる。」

と評価された。準特選には、山野井宏宗（部会員）、吉村敏嗣、板東未記、奨励賞には、三木理紗子、林 敏雄、佐々木奏美（部会員）が選ばれ、入選の中には部会員の斎藤志津子、田村あい、四十宮隆志が選ばれた。伊藤審査員からは「コンクールに限らず普段から作品を入目にさらして欲しい。自分の意図が伝わっているのか、他者の視点を意識した制作が表現力の向上につながる。」というアドバイスもいただいた。

入賞、入選に加え、特別出品の坂本ミチカズ、福井 章、田中一郎、招待の斎藤繁次、坂野美恵子、敷島のり子、無鑑査の斎藤 剛の7点を併せて計40点が展示された。

◎「県展70年 デザイナーアーカイブ展」(12月18日(金)～20日(日) 阿波銀プラザ)

徳島県美術展が70回という節目の年を迎えたのを機に、デザイン部会員19名による過去の県展での受賞作、入選作等60点を集めた展覧会を開催した。第26回(1971年)の県展に「商業美術部門」として初めて参加し、第38回展より「デザイン部門」に改称して現在に至っている。2005年にも「県展・デザイン35年」と題して同様の展覧会を催したが、今回はさらに会員数、作品数ともに増えアーカイブというタイトルにふさわしくデザイン部の歴史と記録、そして会員の意気込みを感じさせるものとなった。師走の寒い中ではあったが、3日間で224名の方々に足を運んでいただき、会員一同にとって今後の励みとなった。

会員消息 (県美術展・放美展は除く)

■天羽宏美

- 11月 グループ展「デザインコアゲインコ Vol.1 ～気ままに手しごと展～」出品
(於: café Bubo 2nd house)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザイナーアーカイブ展」2点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■北島豊嗣

- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザイナーアーカイブ展」3点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■斎藤繁次

- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザイナーアーカイブ展」3点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■斎藤志津子

- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザイナーアーカイブ展」3点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■斎藤 剛

- 9月 斎藤 剛・個展'05～'15 ―ニューランドスケイプを求めて―
(於：徳島県立近代美術館ギャラリー)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展 70 年 デザインアーカイブ展」3 点出品
(於：阿波銀プラザ)

■坂野美恵子

- 9月 第 100 回二科展デザイン部門 会員出品 (於・東京 国立新美術館)
- 9月 第 100 回記念二科展 四部門会員によるコラボ展
テーマ～あそび「ネコ 100 態」～出品 (於・東京 国立新美術館)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展 70 年 デザインアーカイブ展」5 点出品
(於：阿波銀プラザ)

■坂本三千一

- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展 70 年 デザインアーカイブ展」5 点出品
(於：阿波銀プラザ)

■佐々木奏美

- 1月 県政だより アワーとくしま 四コマ漫画制作
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展 70 年 デザインアーカイブ展」3 点出品
(於：阿波銀プラザ)

■沢口 功

- 1月 第 43 回徳島市芸術祭 美術展 デザイン部門審査員出品
(於：徳島市シビックセンター 3 階ギャラリー)
- 12月 第 44 回歳末チャリティー作品・色紙即売展 出品
[徳島新聞社会文化事業団] (於：そごう徳島店)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展 70 年 デザインアーカイブ展」4 点出品
(於：阿波銀プラザ)

■敷島のり子

- 3月 第 25 回美術文化徳島支部展 油彩出品 (於：阿波銀プラザ)
- 4月 はな・はる・フェスタ 国際野外ポスター展～ドイツから学ぼう～企画開催／出品
[ポスターギャラリー実行委員会] (於：しんまちボードウォーク)
- 6月 美術文化展 会友推挙 (於：東京都立美術館)
- 12月 第 44 回歳末チャリティー作品・色紙即売展 出品
[徳島新聞社会文化事業団] (於：そごう徳島店)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展 70 年 デザインアーカイブ展」5 点出品
(於：阿波銀プラザ)

■田中一郎

- 3月 第23回城東高校定期演奏会 ポスター・ちらし・チケット・プログラム表紙・看板のデザイン制作 (於: 徳島市立文化センター)
- 4月 はな・はる・フェスタ 国際野外ポスター展〜ドイツから学ぼう〜1点出品
[ポスターギャラリー実行委員会] (於: しんまちボードウォーク)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザインアーカイブ展」3点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■田村あい

- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザインアーカイブ展」3点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■西林良枝

- 1月 第43回徳島市芸術祭美術展 デザイン部門 特別出品
(於: 徳島市シビックセンター3階ギャラリー)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザインアーカイブ展」3点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■福井 章

- 「徳島賛画」をテーマに、ふるさと徳島を描く作業を続けています。
- 7月 徳島調停協会連合会会報「和と情理」(徳島の札所を描くイラストレーションを連載)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザインアーカイブ展」3点出品
(於: 阿波銀プラザ)
- 12月 田上倉平、山形靖子共著「いきいき人生 後半戦」表紙デザイン担当

■三木由佳里

- 1月 第43回徳島市芸術祭 美術展 デザイン部門・B1ポスター無鑑査出品
(於: 徳島市シビックセンター3階ギャラリー)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザインアーカイブ展」2点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■山内典子

- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザインアーカイブ展」2点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■山野井宏宗

- 9月 第100回記念二科展デザイン部門 入選 (於: 東京 国立新美術館)
- 12月 徳島県美術家協会デザイン部「県展70年 デザインアーカイブ展」1点出品
(於: 阿波銀プラザ)

■吉本 實

- 1 月 徳島県「VS東京」都営バスラッピング情報発信事業〔徳島まると発信〕
〔とくしま特選ブランド・アンテナショップ情報〕デザイン参画
〔JAGDA 産学官連携〕〔徳島県農林水産部もうかるブランド推進課〕
- 1 月 第 43 回徳島市芸術祭 美術展 デザイン部門・B1 ポスター特別出品
〔於：徳島市シビックセンター 3 階ギャラリー〕
- 10 月 徳島県花基金事業 2016 年版「とくしま花へんろポスターカレンダー」
アートディレクション・デザイン制作 〔徳島県観光協会〕
- 11 月 徳島県「VS 東京」とくしま特選ブランドロゴマーク デザイン参画
〔JAGDA 産学官連携部会〕〔徳島県商工労働観光部観光政策課〕
- 12 月 徳島県美術家協会デザイン部「県展 70 年 デザイナーアーカイブ展」2 点出品
〔於：阿波銀プラザ〕

■四十宮隆志

- 4 月 4th Block・第 9 回国際 ECO ポスタートリエンナーレ 6 点出品、1 点入選
〔於：ウクライナ・ハリコフ現代美術センター〕
- 4 月 はな・はる・フェスタ 国際野外ポスター展～ドイツから学ぼう～ 1 点出品
〔ポスターギャラリー実行委員会〕〔於：しんまちボードウォーク〕
- 6 月 JAGDA 日本グラフィックデザイナー協会 通常総会 / 交流レセプション出席
〔於：東京 国際文化会館〕
- 9 月 トルナヴァ・ポスタートリエンナーレ 2015 視察
〔於：スロバキア・トルナヴァ Jan Koniarek Gallery〕
- 9 月 第 11 回世界ポスタートリエンナーレトヤマ 2015 新作ポスター 10 点出品、1 点入選 /
レセプション&授賞式出席 〔於：ANA クラウンプラザホテル富山 / 富山県立美術館〕
- 12 月 徳島県美術家協会デザイン部「県展 70 年 デザイナーアーカイブ展」5 点出品
企画&キービジュアル担当 〔於：阿波銀プラザ〕

あ　と　が　き

会員の皆様をはじめ、関係者の皆様のご尽力のおかげで、春の第23回 放美展、秋の第70回 県展ともに盛会となりました。心より感謝いたします。

今年度より、県展が2期制から3期制に変わり、展示場所も広くなり、よりたくさんの作品が展示されるようになりました。

また70回記念として徳島県出身の版画家・吹田文明氏の特別講演も開催し、多くの聴衆の方々に参加していただきました

今年度の美術年報の装幀は、書道部荒井彭仙氏にお願いし、素晴らしいものとなりました。ありがとうございました。

さて、今年度より美協事務局は洋画部から引き継ぎをし、写真部が担当させていただいております。行き届かぬことも多くございましたが、各部会の皆様に多大なご協力をいただき、無事に美術年報を発行することができました。厚く御礼申し上げます。

これからも皆様の創作活動が人々に感動を与え、徳島県の美術界のますますの充実と発展に繋がりますことを心より祈念いたします。

徳島県美術家協会事務局

上野 照文

美術年報 2016

平成 28 年 3 月 30 日 印刷

平成 28 年 3 月 31 日 発行

編集者 上 野 照 文

装幀者 沢 口 功

発行人 河 崎 良 行

印 刷 星印刷株式会社

発行所 徳島県美術家協会

徳島市大和町 2 丁目 3-48 上野方
